

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
①学生の確保の見通し	1
ア 定員充足の見込み	1
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	1
ウ 学生納付金の設定の考え方	4
②学生確保に向けた具体的な取組状況	4
(2) 人材需要の動向等社会の要請	5
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	5
②上記①(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観 的な根拠	6

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ① 学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程<sup>1</sup>の定員設定の考え方・定員充足の見込みについては、私立薬科大学(4年制)の博士課程入学定員および立命館大学薬学部創薬科学科の進路希望調査の状況を分析した上で、長期的かつ安定的な充足を担保できる入学定員を検討し、入学定員は3名とした。次項「イ」において詳細な分析結果を述べるが、定員設定の考え方・定員充足の見込みの概要は以下のとおりである。

博士課程後期課程(4年制の学部を基礎とする課程)を設置する私立薬科大学は13大学であり、入学定員は2～6名となっている。本学の入学定員の設定は3名であり、他大学と比較した場合でも妥当な数字である。

また、本学薬学部創薬科学科の4回生に向けて、進路希望についてのアンケート調査を行ったところ、大学院博士課程後期課程への進学を希望する者(Q2の回答「ぜひとも進学したい」「合格した場合、併願大学の結果によっては進学したい」の計)は全体の14.3%(4名)であり(資料1「立命館大学大学院薬学研究科薬科学専攻(仮称)博士課程に関するアンケート調査」p.2)、このことから入学定員を確実に充足できると見込んでいる。

なお、グローバル教養学部の定員充足率が0.7倍を下回っているが、当該学部は学期ごとの定員はもうけていないものの、入学定員100名のうち4月入学は50名(オーストラリア国立大学において1年次の履修を開始する学生10名を含む)、9月入学は50名を目安に募集を行っている。2019年度の定員充足率は、入学辞退者が予想以上に多くなったために0.65倍となったが、令和2年4月10日時点での2020年度4月入学者数は45名で、現時点での入学定員充足率は0.55倍である。加えて9月入学者数については、現時点で全4回ある入学試験のうち3回の入学試験を終了し、合格者数は77名である。そして、この4月から5月にかけて残り1回の入学試験を実施することから、さらに合格者数は増える見込みである。これらのことから、2020年度については入学定員100名を充足できる見通しがあり、志願者も充分確保できていることから、定員設定は適切である。

また、国際関係学部アメリカン大学・立命館大学国際連携学科(入学定員25名)も定員超過率が4月段階で0.7倍未満となっているが、同学科も学期ごとに定員を設けずに9月入学の募集人員を含み、同様に安定的な学生確保の見通しがあることから、適切な定員設定となっている。

---

<sup>1</sup> 今次博士課程設置と同時に、修士課程を博士課程前期課程に課程を変更する申請を行うことから、以下、本文書では2020年4月に設置する修士課程を博士課程前期課程と表記する。また、今回設置申請する博士課程は博士課程後期課程とすることから、博士課程後期課程と表記する。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### (1) 私立薬科大学(4年制)の博士課程入学定員

一般社団法人日本私立薬科大学協会による「2019年度(令和元年度)私立薬科大学(薬学部)大学院入学志願者調」(資料 2、p.12)より、博士課程後期課程(4年制の学部を基礎とする課程)を設置する私立薬科大学は 13 大学であり、入学定員は 2~6 名となっている。本学の入学定員の設定は 3 名であり、他大学と比較した場合でも妥当な数字である。

また、入学者の実数をみると、0 名 2 大学、1 名 1 大学、2 名 5 大学、3 名 1 大学、5 名 2 大学、7 名 2 大学となっている。13 大学中、入学者が 3 名以上の大学は 5 大学であるが、後述するように、立命館大学薬学部創薬科学科の進路希望調査の状況から、今般設置する研究科の入学定員を 3 名とすることは妥当であると考えられる。

### (2) 本学薬学部創薬科学科4回生を対象としたアンケート

定員充足の見込みを検討するにあたり、本学薬学研究科薬科学専攻博士課程前期課程(2020年4月設置)の初年度進学者となる本学薬学部創薬科学科4回生31人を対象としたアンケート調査を2019年11月に実施した。実施にあたっては「立命館大学大学院薬学研究科薬科学専攻(仮称)博士課程について」において、①設置の理念と養成する人材像、②設置予定の専攻・学位の名称、③開設年度、④定員、⑤学費、⑥人材育成目的、⑦カリキュラムを明示するとともに、担当教員より解説を行った。アンケート分析の結果は、以下のとおりである。

#### 1) 学部卒業後の進路

2019年11月に本学薬学部創薬科学科の4回生で、薬学研究科薬科学専攻博士課程前期課程に進学する31人に行った大学院卒業後の希望進路の上記アンケート調査では、28名の回答がえられ、Q1で「薬学研究科薬科学専攻博士課程」に「興味がある」と回答した学生が4人(14.3%)、「すこし興味がある」が15人(53.6%)で、博士課程後期課程進学に関する期待や関心が高いことがうかがわれた(資料1 p.2)。また、本学薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の受験・入学をすでに検討している4名に、志望理由についての質問Q3(複数回答可)を行ったところ、「創薬科学について学修・研究を深めたいから」(4人、全体の100%)と、「国際的に活躍する研究者を目指しているから」(3人、全体の75%)が主な回答であり、「大学教員になりたいから」(1人、全体の25%)とする回答も見られた(資料1 p.2)。

また、本専攻修了後の希望進路を問うQ4の回答(複数回答可)は、「製薬会社や化学メーカーの研究・開発部門で活躍を目指す」と「博士課程でさらに研究を進展させ、大学教員やアカデミアでの研究職を目指す」が、それぞれ2人ずつ(各50%)でとなっている。同アンケートを進路ガイダンスに出席した創薬科学科3回生についても行ったところ、本学薬学研究科薬

科学専攻博士課程後期課程への進学に関心を持つ14名からの回答のうち、「製薬会社や化学メーカーの研究・開発部門で活躍を目指す」(9人、全体の64.3%)が主な回答であった(資料1 p.1)。これらの結果から、学生は創薬科学科で学ぶ中で、自身のキャリアプランと重ねて博士課程後期課程進学を検討していることが明らかになった(資料1 p.2)。

加えて本学生命科学研究科博士課程前期課程に現在在学し、本学薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の受験・入学を検討している3名の学生についても、同様のアンケート結果を得ることができ、他研究科の大学院生の進学の可能性があることも明らかとなった(資料1 p.3)。

## 2) 学内進学者の入学希望

2019年11月に、本学薬学部創薬科学科の4回生のうち、博士課程前期課程に進学予定の31名に大学院博士課程進学に関するアンケート調査を行った。回答した28名のうち3名(10.7%)が大学院博士課程に「ぜひとも進学したい」、1名(3.6%)が「合格した場合、併願大学の結果によっては進学したい」という回答であり、学内進学者の博士課程後期課程への入学希望を確認した(資料1 p.2)。

また、本学生命科学研究科博士課程前期課程に現在在学する3名の学生が、本学薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の受験・入学を検討していることも確認した(資料1 p.3)。

以上のように、薬学科3回生、4回生および本学生命科学研究科在学学生といった、回生が異なる学生に対して行ったアンケートのいずれにおいても、博士課程後期課程への入学希望を確認できており、長期的に学生を確保する見通しがあると考えている。

今後は薬学部の卒業研究室でも適宜、指導教員を通じて、進学希望学生に向けてアドミッションポリシーやキャリアパスの情報を提供していくことにより、進学希望者が確実に本専攻を受験することにつなげたいと考える。

## (3) 理系学生を対象とした学外アンケート

株式会社NTTドコモのプレミアパネルサービスを利用し、本学薬学研究科薬科学専攻(仮称)修士課程に関するwebアンケートを実施した際に、併せて本学薬学研究科修士課程修了後の進路についての希望調査を行った(資料3 p.13)。

全国の学部3、4回生を対象として行った同アンケートのうち、「立命館大学「薬学研究科薬科学専攻修士課程」に入学したいと思いますか?」という質問 Q3 で「ぜひとも入学したい」、「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい」と回答した162名の理系学生3、4回生のうち、Q5の「あなたが薬学研究科薬科学専攻修士課程に入学した場合、希望の進路をお答えください」という質問に「博士後期課程にてさらに研究を進展させ、薬学部教員やアカデミアでの研究職を目指す」とする回答が17人(10.5%)であり、博士課程進学を検討して

いる学生が一定数存在することを確認できた(資料3 p.20)。

なお、このアンケートは修士の学生確保の見通し調査のために行ったものであるが、大学院進学とその先のキャリアを見据えた場合に修士課程修了後の進路として、博士課程進学を検討している学生が一定数存在することを確認できたことは、博士課程後期課程の学生確保の見通しを補強するエビデンスになるものと考えている。

## ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、博士課程後期課程の学生を確保するため、大学として戦略的な金額設定としている。本学では博士課程後期課程の学生納付金は全研究科一律 50 万円としており、本研究科においても学生納付金は 50 万円とする。修了(3 年間)までに必要な学生納付金の総額は 1,700,000 円であり、他大学の学生納付金の状況(資料4 p.27)と比較しても競争力のある水準であると考えている。

このように、本学の学生納付金は他大学と比較しても競争力のある水準であるが、さらに、学生の経済的負担を軽減するための各種措置を整備している。これらの情報は本学ホームページで一覧にして公開しており、学生および入学を志望する者が容易に情報にアクセスできるように努めている([http://www.ritsumei.ac.jp/ru\\_gr/g-career/fellow/doctor/index.html/](http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/fellow/doctor/index.html/))。

## ②学生確保に向けた具体的な取組状況

### ア 2019 年度までの取組

薬学研究科薬科学専攻博士課程前期課程への学内進学者に対して、2019 年 11 月に進路ガイダンスを行った。博士課程前期課程への学内進学者 31 名のうち 28 名が出席し、ガイダンス時の進路希望アンケート調査の結果より、出席者のうちすでに 4 人が本学薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の受験・入学をすでに検討している(資料1 p.2)。これは、「わからない」と回答した人数を除くと、回答者全体の 23.5%を占めた。併せて、進路ガイダンスに出席した創薬科学科3回生に行った同アンケートにおいても、本学薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程に進学を強く希望する者がすでに5名にのぼることを確認した(資料1 p.1)。

### イ 2020 年度における取組予定

本学薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の設置構想を行う過程で、学生が一堂に会する機会や学生が進路について保護者等と本格的に相談すると想定される時期に、適宜、進路ガイダンスを行う予定である。大学院博士課程後期課程進学の意義、就職との関係性など基礎的な情報に加え、立命館大学内の他研究科の事例などを引用しながら、教育内容(カリキュラム、研究分野)・学費の目安・入試の仕組みの説明を継続的に行うことで、定員の長期的かつ安

定的な充足を担保する。また、学部パンフレット・ホームページにも学部卒業後に大学院へ進学するイメージを喚起できるよう学びのフロー図などに大学院項目を追加すべく準備を行う。

広報活動については、大学院案内パンフレットや大学の入試サイトへの掲載、ホームページの充実も図るとともに、学内関係部署の組織的で密接な連携のもとに継続的な学生確保に取り組む。ホームページを中心とした情報提供を行うとともに、リーフレットやポスターを作成し、薬学・化学関連の学部を持つ大学へ送付を行う。また、薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の設置届出後には、学外からの学生募集とともに社会的認知を向上させるためにも、人材育成目的、研究内容やカリキュラム等についての広報活動を実施する。

なお、各種広報活動に関しては、「設置構想中」である旨を必ず説明・明記し、内容は予定であり変更する可能性について、周知を徹底した形で行う。

## **(2)人材需要の動向等社会の要請**

### **①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)**

「設置の趣旨等を記載した書類」でも述べたとおり、2006(平成 18)年 4 月に学校教育法、薬剤師法が改正され、日本の薬学教育は、「医療現場で活躍する薬剤師」を養成する 6 年制学士課程と、薬学基礎系として従来からの「薬を生み出す創薬研究者」を養成する 4 年制学士課程の 2 つの薬学教育課程に再編された。本学では、2008(平成 20)年に開設した 6 年制学士課程に加え、2015(平成 27)年に 4 年制学士課程である創薬科学科を設置した。

創薬科学科においては、「薬を中心に据えた」人の健康に関わる自然科学を基盤とし、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」の専門知識と技術の習得を通じ、医薬品創製の分野で社会に貢献できる人材育成を目指し、教育を行ってきた。2020(令和 2)年 4 月に設置する薬学研究科薬科学専攻博士課程前期課程では、「薬科学の専門知識および研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成すること」を目的とし、創薬産業や医療関連産業に対して質の高い人材の恒常的供給を目指すこととなった。

今回設置を行う薬科学専攻博士課程後期課程は、「薬を生み出す創薬研究者」の輩出という観点から、高度な薬科学の専門知識および優れた研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成することを目的とする。医薬品創製のプロセスは幅広い研究領域からなることから、薬科学専攻博士課程前期課程では、専攻内に薬品分子創製化学、生体分子解析学、薬物動態解析学、生体機能薬学、薬物作用解析学の 5 つの分野を設定して専門分野に応じた基盤的な知識及び先端的な研究技術が取得できる教育体制としている。本専攻博士課程後期課程においても、その教育体制を維持し、前期課程及び後期課程で一貫した教育体制とする。薬品分子創製化学分野は有機化学、天然物化学を、生体分子解析学

分野は物理化学、分析化学、衛生化学を、薬物動態解析学分野は薬剤学、製剤学、安全性評価学を、生体機能薬学分野は生化学、衛生化学を、薬物作用解析学分野は薬理学、有効性評価学を基盤とする。

これらの研究分野を履修する学生が、博士課程後期課程修了時点に身につけるべき能力(教育目標)として以下に示す教育目標を定めた。

<教育目標>

- ① 薬学および生命科学領域の知識を基礎として、医薬品等の創製を中心とした薬科学の高度な専門知識を有する。
- ② 高い倫理観を持って医薬品等の研究開発を推進し、衛生行政にも貢献できるような、高度な問題発見・解決能力、論理的思考能力を有する。
- ③ 日本語および外国語による高度な論理的文章力、プレゼンテーション能力を有する。
- ④ 国際社会で活躍するために、薬科学分野の専門知識を用いた英語でのコミュニケーションができる。

**②上記①(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要))が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠**

近年、創薬研究の重要性はますます増大しており、日本再興戦略(平成25年6月閣議決定)において、医療関連産業は、日本が国際的に強みを持ち、グローバル市場での成長が期待できる戦略分野と認知されたのに引き続き、2015(平成27)年6月に厚生労働省より出された国際薬事規制調和戦略においても、日本の強みを生かした医薬品開発環境の整備やレギュラトリーサイエンスの更なる環境整備を通じて、国際社会の保健衛生向上への一層の貢献が訴えられている。

全国の薬系大学院修了者(4年制学科卒)の進路状況(資料5「一般社団法人薬学教育協議会 平成31年3月薬系大学卒業生および大学院修了者の就職動向調査結果報告書」第16表 p.33)を見ると、修士課程修了後の博士課程への進学者は全大学で216人であり、修了者992人の進路の21.8%にのぼる。私立大学においては、修了者数242人に対して、進学者の割合は10.7%である。博士課程終了後の進路については、主に「教育・研究職」「製薬(研究・開発)」であり、続いて、「化学・食品等」の順となっている(同第16表)。修士課程修了者に比べて、博士課程修了者の進路には「教育・研究職」が多く、大学や公的機関の教育・研究職に就くには専門分野における博士号の取得が必須であるといえる。また、博士課程修了者の主な進路も修士課程修了者と同じく「製薬(研究・開発)」であることから、医薬品関連企業の研究・開発部門への就職には修士レベルの専門知識と技術の習得に加えて、研究・開発のより高度な人材として博士課程修了者が求められていることが伺える。

これら医薬品関連企業に創薬人材を供給する立場にある薬学系の博士課程は 56 私立大学薬学部・薬科大学のうち 13 大学に設置されているに過ぎず、しかもその総入学定員 48 人のうち 4 大学の 4 研究科を合わせて 8 人(16.7%)が西日本にあるのみで、東日本地域における偏在が著しい(資料 6 「文部科学省 薬学系大学院専攻別一覧 2019 年(平成 31 年・令和元年)度」 p.35)。大学院修了者が目指す製薬関連企業には、元来大阪発祥の企業が多いことが知られ、現在も武田薬品工業株式会社、大日本住友製薬株式会社、塩野義製薬株式会社、小野薬品工業株式会社などの国内大手企業に加え、アストラゼネカ株式会社、バイエル薬品株式会社などの外資系企業が大阪市に本社をおく。また本社の立地と物流の関係から、大阪府や滋賀県を中心とする近畿圏に研究所や工場を持つ企業が多くを占め、他業種に比べ京滋、阪神を拠点として事業展開する企業の割合が多い(資料 7 「医薬品企業売上高トップ 20 社の本社・研究所・工場の所在地」 p.36)。

このような状況下、滋賀県唯一の薬学部を擁する本学が、「高度な薬科学の専門知識および優れた研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成する」ことを人材育成目的とする薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程を設置することは、この創薬人材の地域的偏在性改善に有効であるばかりか、関西を主たる基盤の一つとする医療関連産業に対し恒常的に質の高い人材の供給を可能にすることから、現今の創薬人材の払底に対する社会的要請に応え、日本再興に貢献する観点からも意義深いと考える。

#### ■ 製薬関連企業へのアンケート結果

上述のような社会的、地域的な人材需要について、学生の主な就職先となると考えられる製薬関連企業へアンケート調査(2017(平成 29)年 12 月)を行った。アンケート調査は修士課程の設置の際に行ったものであるが、このときに博士課程に関しても合わせて調査している。アンケートは、滋賀県薬業協会会員企業 27 社、大阪医薬品協会会員企業 298 社、日本製薬工業協会会員企業 50 社の計 375 社に対して行い、回答は無記名とした。回答数は 119 社、回答率は 31.7%であった(資料 8 「立命館大学大学院薬学研究科薬科学専攻(仮称)修士課程についてのアンケート結果(医薬品関連企業人事ご担当者向け)」 p.37)。

##### (1) 薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程に対する評価・採用希望

構想中の薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の企業からの評価について調査を行った。Q4 および5で「薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得した人材は御社にとって必要ですか?」、「御社において、薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得していることは強みになりますか?」という質問を行った。前者に関しては、「そう思う」(28.6%)と「ややそう



思う」(21.8%)をあわせて 50.4%、後者についても「そう思う」(30.3%)と「ややそう思う」(26.9%)をあわせて 57.2%と、博士課程修了者を望む声が高いことがあらためて確認された。

また、自由記述欄の記載として、「今後は修士よりも博士課程修了者に期待します」、「微に渡った知識以上に修士、博士であればコアな知識・技術を持った学生が欲しいと考えています」、「製薬企業として、専門知識と研究を兼ね備えた大学院修士・博士の院生を採用し、医薬事業の強化を図っていきたいと考えておりますので、質の高い教育をしていただき、社会に貢献できる卒業生を送り出していただければ幸いです」といった回答があった。

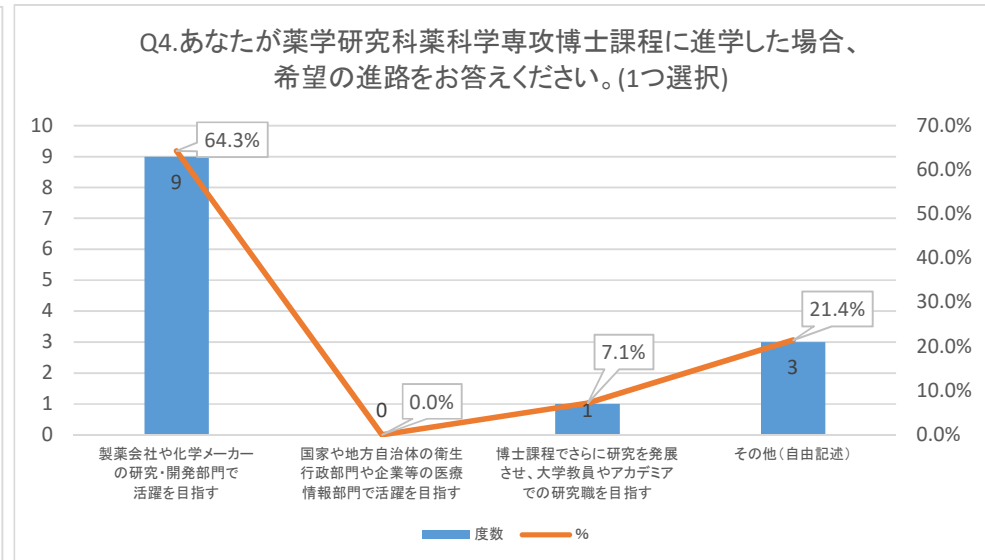
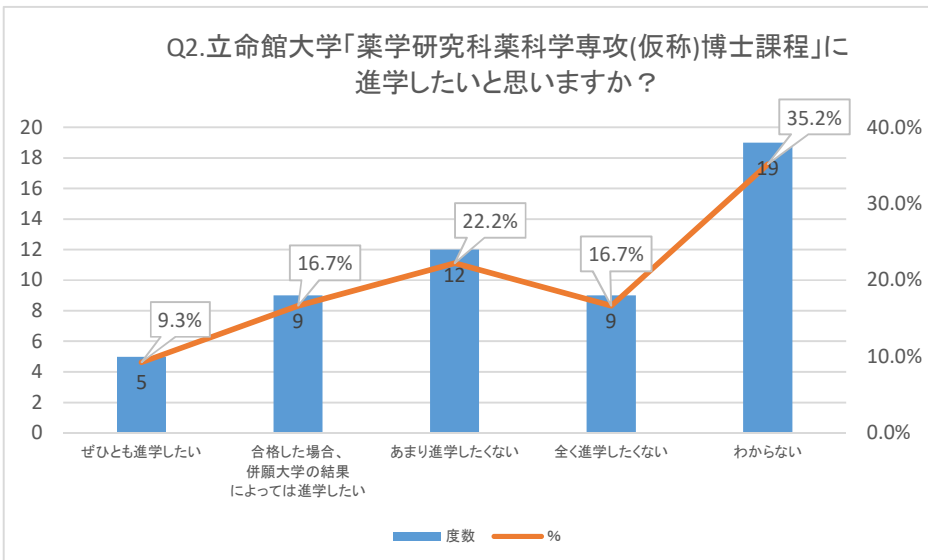
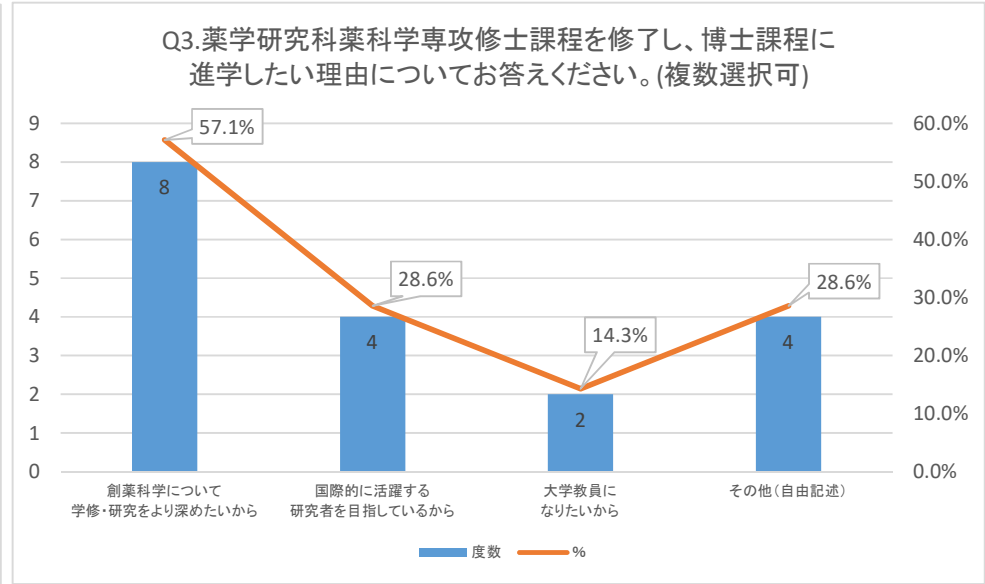
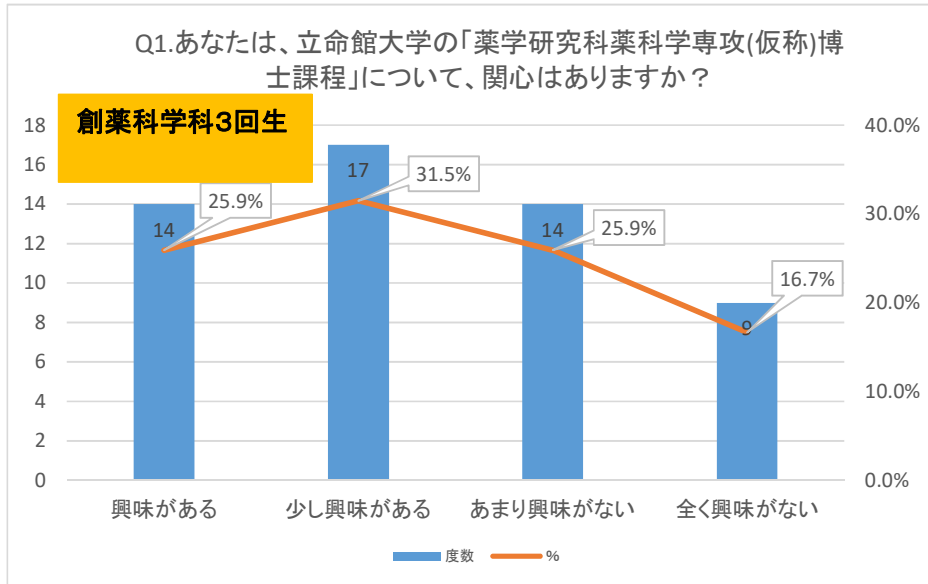
## (2) 博士課程後期課程修了者の企業需要・評価

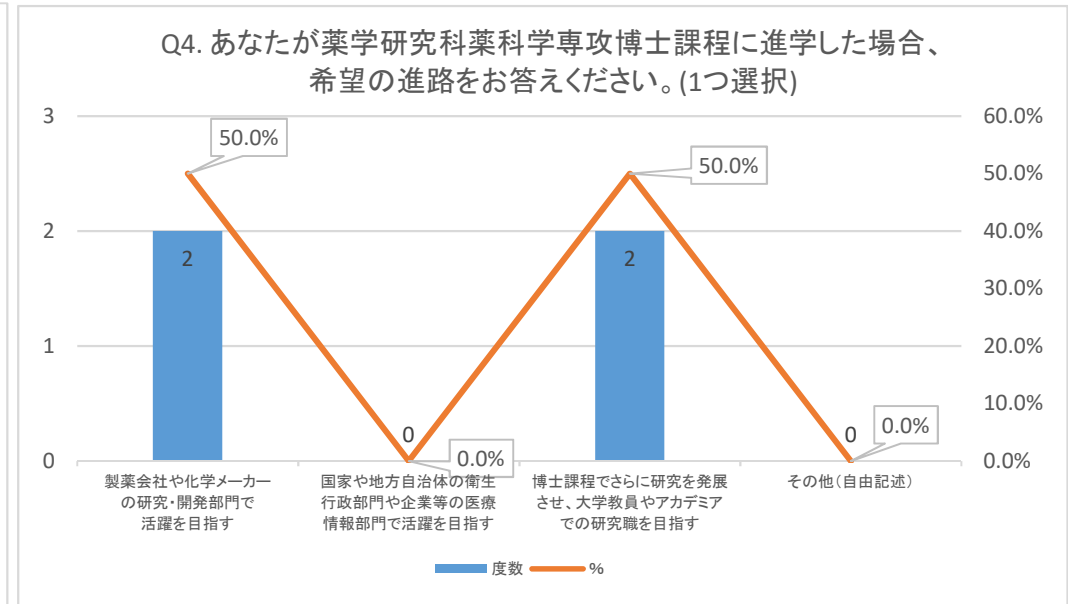
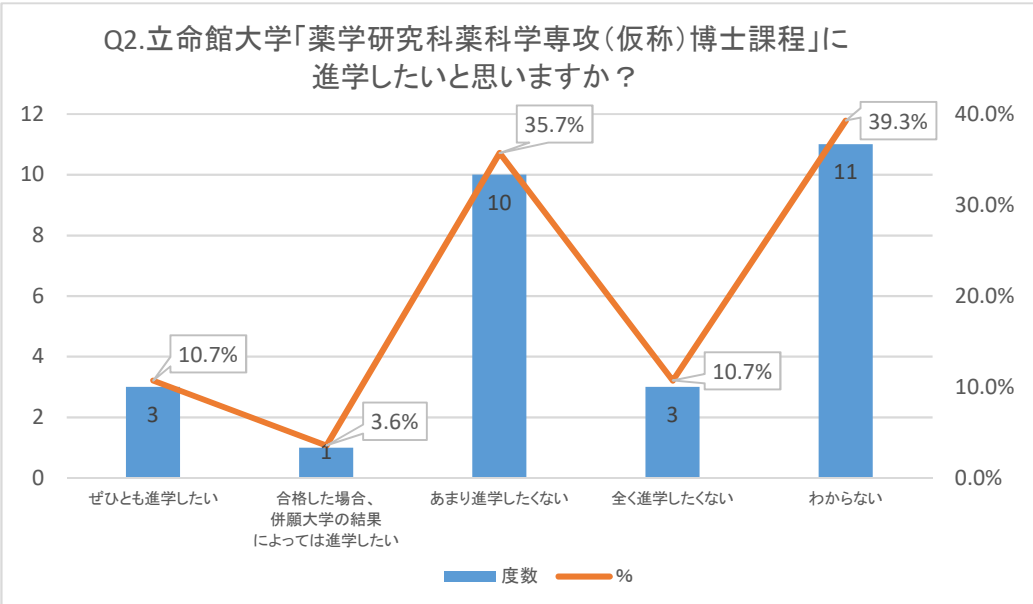
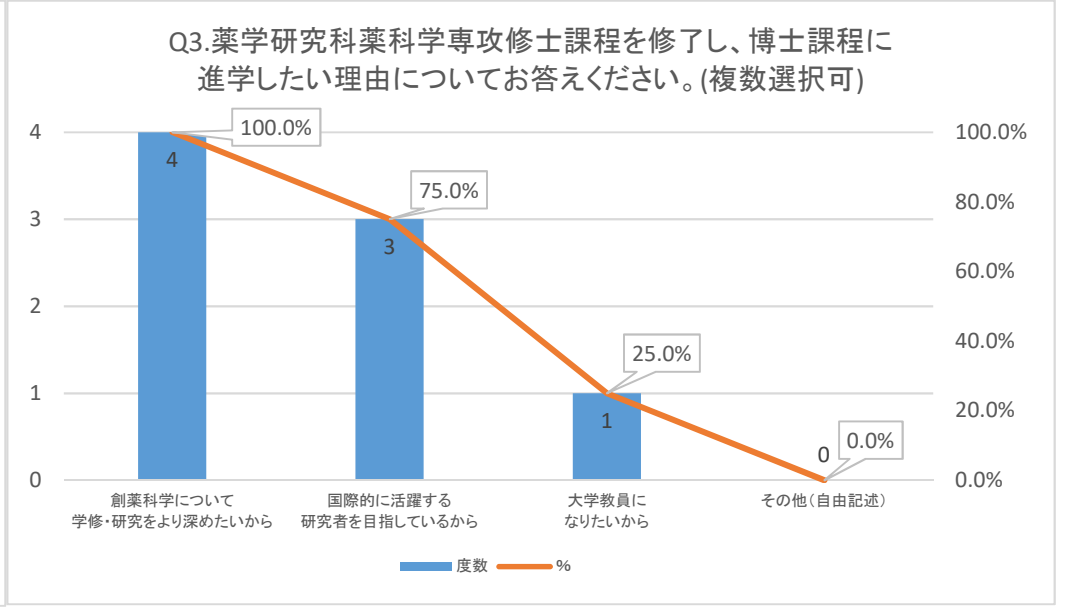
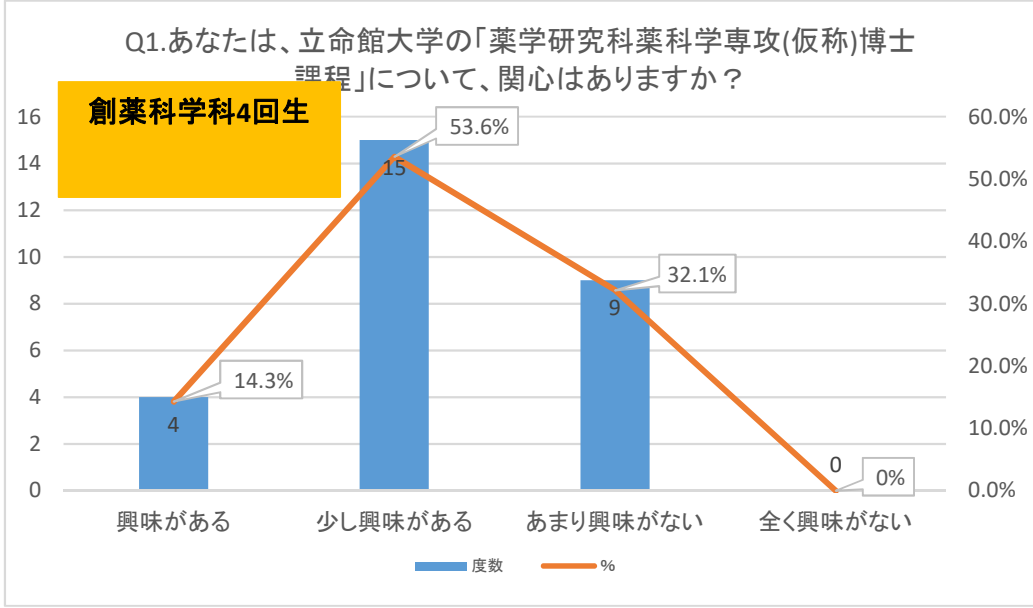
博士課程後期課程修了者の企業需要・評価について、アンケートの Q6「薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得していることは、どの分野において強みになりますか？」(複数回答可)という質問で確認を行ったところ、割合が高いものから順に研究職(35.8%)、開発職(33.6%)、学術職(14.2%)、医薬情報担当者(9.7%)、その他(6.7%)の順となり、一般社団法人薬学教育協議会による「平成 31 年 3 月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査の集計報告」(前掲資料 5)の結果と一致していると言える。

修士課程の質問 Q3「薬学系の修士課程を修了していることは、どの分野において強みになりますか？」では、回答は割合の高い順に開発職(32.4%)、研究職(27.4%)、学術職(16.9%)、医薬情報担当者(16.0%)であり、博士課程は修士課程と比較して、より高度な専門知識と技能を必要とする研究職の需要が高いことがわかった。

以上のことから、いずれの質問についても高い評価を得ることができ、本学薬学研究科薬科学専攻博士課程後期課程の人材育成目的に沿って育成した人材について、需要があることは明らかである。

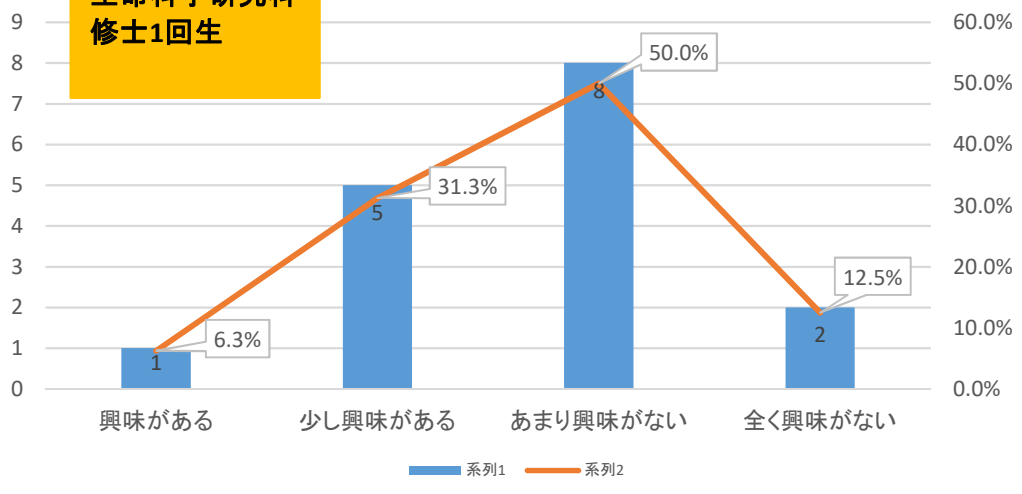
以 上



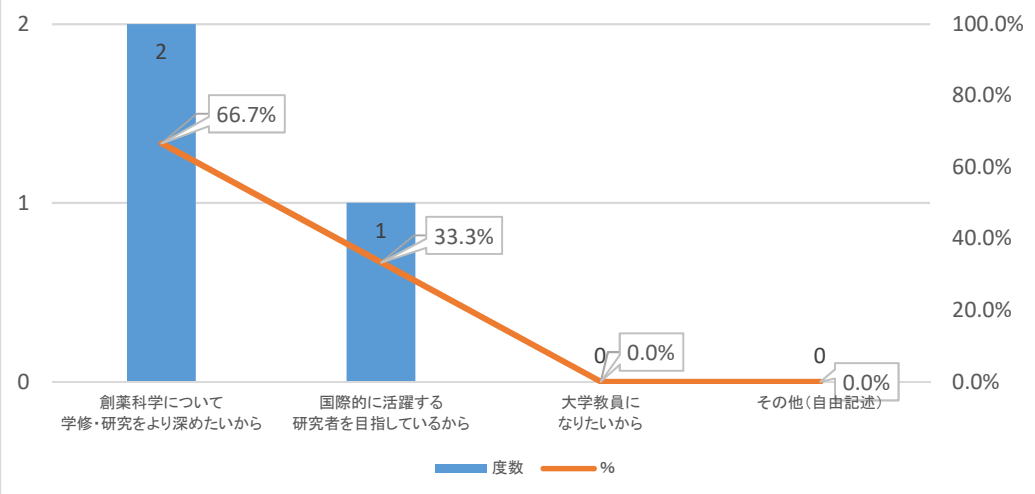


Q1.あなたは、立命館大学の「薬学研究科薬科学専攻(仮称)博士課程」について、関心はありますか？

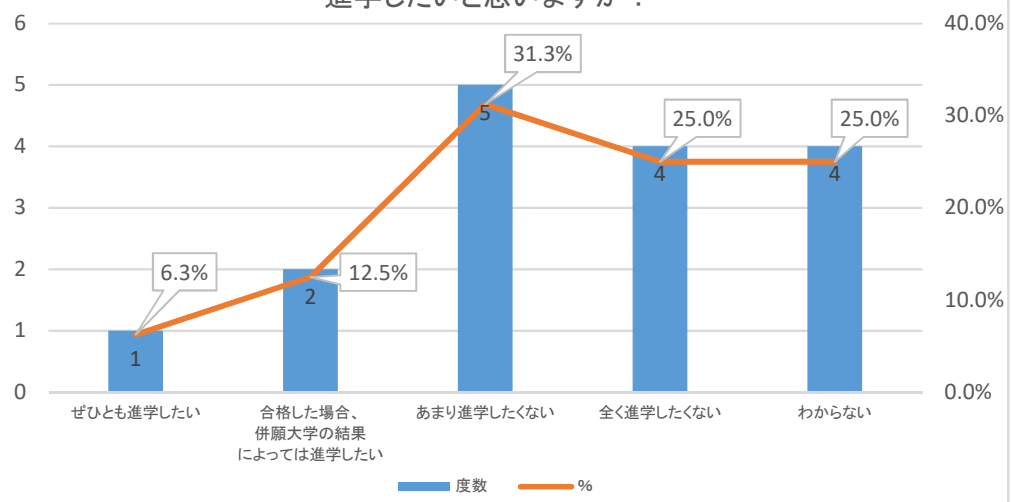
生命科学研究所  
修士1回生



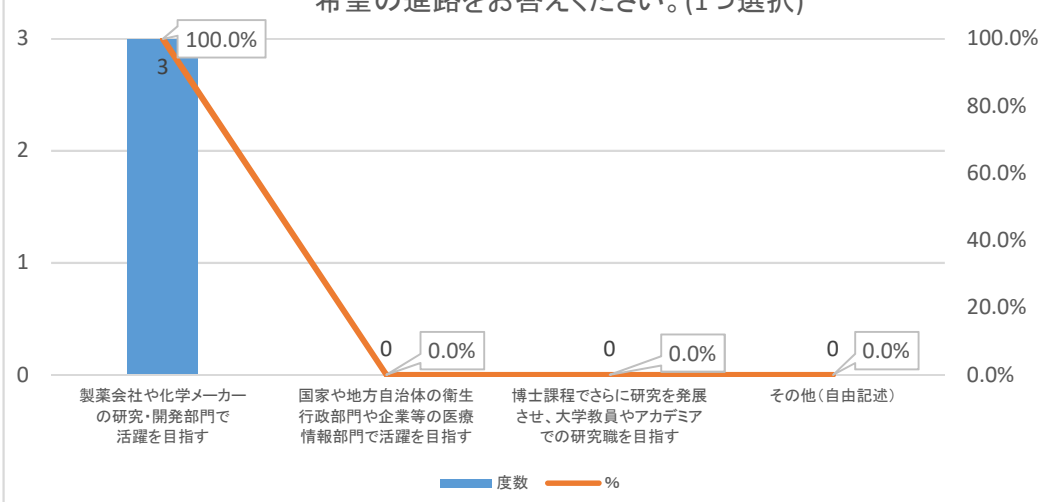
Q3.薬学研究科薬科学専攻修士課程を修了し、博士課程に進学したい理由についてお答えください。(複数選択可)



Q2.立命館大学「薬学研究科薬科学専攻(仮称)博士課程」に進学したいと思いますか？



Q4.あなたが薬学研究科薬科学専攻博士課程に進学した場合、希望の進路をお答えください。(1つ選択)



# 設置構想中

※下記内容は、設置構想中の計画です。大学名、研究科・専攻の名称、教育内容、募集人員、募集開始時期、入学者選抜方法等については、現時点での予定であり、変更があり得ることをご了承ください。

2019年11月

## 立命館大学大学院薬学研究科薬科学専攻（仮称）博士課程について

### (1) 専攻名称、学位名称

基礎となる学科は「創薬科学科」であるが、本専攻の名称は、より広い領域を対象とする教育と研究を行うことから「薬科学専攻」とする。

学位および学位に付記する名称は、「博士（薬科学）」とする。研究科・専攻・学位等についての英文表記は、次のとおり。

研究科	薬学研究科	Graduate School of Pharmacy
専攻	薬科学専攻	Major in Pharmaceutical Sciences
学位	博士（薬科学）	Doctor of Pharmaceutical Sciences

### (2) 開設年度：2021年4月

### (3) 定員：入学定員：3名、収容定員：9名

### (4) 学費：現在検討中ですが、立命館大学の理系大学院と同水準となることを想定しています。

## 設置場所

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス



駅名	路線	所要時間	備考
京阪 中書島駅	直行便バス	約30分	平日 中書島発15便 大学発14便 (土日祝は運行しません。)
JR 大津駅	直行便バス	約25分	平日16往復(土日祝は運行しません。)
JR 大阪駅	JR	47分	
JR 京都駅	JR	17分	
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄	(京都駅経由)約60分	
JR 三ノ宮駅	JR	約70分	

近江鉄道バス  
約10分  
「立命館大学行き」  
または  
立命館大学経由  
「飛鳥グリーンヒル行き」

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

薬学研究科薬科学専攻博士課程では、修了時点において学生が身につけるべき能力（教育目標）として下記の4点を定めます。所定科目12単位以上の修得と薬学研究科が定める学位（博士）論文評価基準に基づく博士論文審査の合格をもってその達成とみなし、博士（薬科学）の学位を授与します。

- ① 薬学および生命科学領域の高度な知識を習得し、医薬品等の創製を中心とした薬科学の高度な専門知識を有する。
- ② 高い倫理観を持って医薬品等の研究開発を推進し、衛生行政にも貢献できるような、高度な問題発見・解決能力および論理的思考能力を有する。
- ③ 日本語および外国語による高度な論理的文章力、プレゼンテーション能力を有する。
- ④ 国際社会で活躍するために、薬科学分野の専門知識を用いた英語でのコミュニケーションができる。

#### カリキュラム概要（案）

科目分野	科目名	配当年次（※）	単位数		
			必修	選択	自由
講義科目	英語研究発表演習	1～3		2	
薬科学 研究科目	特別研究Ⅰ	1 春	2		
	特別研究Ⅱ	1 秋	2		
	特別研究Ⅲ	2 春	2		
	特別研究Ⅳ	2 秋	2		
	特別研究Ⅴ	3 春	2		
	特別研究Ⅵ	3 秋	2		

（※）「春」「秋」は春学期と秋学期の略です。

#### 研究室概要（案）

##### <薬品分子創製化学分野>

薬品分子化学研究室 担当教員／梶本 哲也 薬学博士

本研究室では、天然物化学および有機合成化学をバックグラウンドとして、天然物の合成、化学修飾、天然物類似体の合成を行いながら、医薬品シードとなり得る生理活性物質の探索を研究テーマとする。特に、ガングリオシド、ステロイド配糖体、イミノ糖ならびにその類縁体の生物活性に注目し、これら有機化合物の一般的かつ効率的な合成法の確立を目標としている。本目標の1つを達成すべく、無臭チオールを活性化基とするチオグリコシドを用いて、環境に優しいグリコシル化反応を検討する。

#### 精密合成化学研究室 担当教員／土肥 寿文 博士（薬学）

有機合成化学を通じて、新しい創薬リード化合物を生み出したり、くすりの望みとする機能を大きく引き出したりすることができ。現在、欲しい医薬品を理論的に設計する時代が到来しつつあり、創薬の場においてますます有機合成の活躍する環境が整ってきた。本研究室では、これまで、創薬研究に役立つ有機合成の知識と技術の伝承に携わりながら、持続可能で未来に残る精密有機合成を1つの指針として追及してきた。独自に開発した合成化学手法を用いて、優れた生物活性を持つ天然物や生物活性物質の類縁体を合成し、創薬開発候補とする研究開発を目指す。

#### 生命薬化学研究室 担当教員／古徳 直之 博士（薬学）

生命現象は多くの有機化合物が介在する化学反応の集合体である。それらのバランスが崩れ、制御不能となった状態が病気であり、医薬品はそのバランスを回復させることで治療につながっていると考えることができる。現在用いられている医薬品の大半は、ユニークな化学構造と強力な生物活性を示す天然有機化合物をもとに生み出されており、生命現象を制御する化合物の宝庫である。本研究室では、生物活性天然物を基盤とした創薬化学研究や、その作用メカニズムを解明するためのケミカルバイオロジー研究を展開することで、有機合成化学の力を使って、新たな医薬品の創製や、未知の生命現象の発見につながるような新しいツール分子の創出を目指す。

### **<生体分子解析学分野>**

#### 生体分子構造学研究室 担当教員／北原 亮 博士（理学）

タンパク質が異常をきたすと、アルツハイマー病に代表される神経変性疾患や癌など様々な病気につながる。タンパク質の構造を原子レベルで理解することにより、機能発現や病気のメカニズムの分子論的な解釈や論理的な化合物設計が可能となる。数千気圧の高圧力実験から、溶液中のタンパク質がもつ多様なコンフォメーションの存在を明らかにする。構造変化は、コンフォメーション間の化学平衡の変化を意味し、分子の機能の高さや凝集性などその性質と直接関係する。このようなタンパク質構造の研究から、医薬品開発における新しい方法論の開発を目指す。

#### 生体分析化学研究室 担当教員／豊田 英尚 薬学博士

糖鎖は、がんや糖尿病、ウイルス感染のほか、免疫機能とも関わり、あらゆる生命現象を解く鍵である。薬学研究では、生物薬品における糖鎖が薬効や安全性に影響をあたえるため、非常に重要な研究対象である。当研究室では糖鎖の機能解明を目的として、医薬品開発に役立つ研究を行うほか、ES細胞やiPS細胞における糖鎖の質的・量的な解析を行い、再生医療への貢献を目指している。具体的には、生体内糖鎖の中でも特に分析が難しい、グリコサミノグリカン

(ヒアルロン酸、ヘパリン・ヘパラン硫酸、コンドロイチン硫酸、ケラタン硫酸) などの酸性多糖に関する超微量分析法の開発を行っている。また、iPS細胞表面やES細胞表面に発現する特異的な糖鎖エピトープが細胞リプログラミングや分化において果たす生物学的役割を解析して、その活性糖鎖の化学構造を解明することにより、再生医療に役立つ細胞培養技術に必要な基盤知識の獲得を目指す。

## <薬物動態解析学分野>

### 分子薬物動態学研究室 担当教員／藤田 卓也 博士 (薬学)

医薬品とは、特定の薬理効果を持つ有機化合物にその有効性と安全性を保障する十分な情報と、確実にヒトに投与されるための技術が付与された1つのシステムと考えられる。近年、ゲノム情報に基づいた論理的な医薬品開発が理論上は可能となってきている。こうしたゲノム創薬をはじめとした新薬開発研究は、非常に魅力的であり、注目が集まりがちであるが、その有効性と安全性が確保されなければ決して医薬品としての医療現場に供されることはない。そのため、新規医薬品の開発には、薬物の体内動態研究に基づいた化合物の最適化、有効性と安全性に関するproof of conceptの検証、さらには適切な投与システムの開発が必須となる。医薬品の体内動態、薬物の吸収 (A: absorption)、分布 (D: distribution)、代謝 (M: metabolism)、排泄 (E: elimination)、毒性 (Tox: toxicity) により規定されるが、これらの生体内反応にかかる分子機構は極めて複雑で、未だ十分に解明されているとはいえない。本研究室では、こうしたADME-Tox研究の中で、主として薬物吸収に焦点をあて、探索段階における新規開発化合物のヒトでの吸収性予測や製剤設計の合理化に関する研究、および創薬ターゲットとしてのトランスポーターの探索を進めている。

### 分子薬剤学研究室 担当教員／菅野 清彦 博士 (薬学)

良好な生物学的利用率 (バイオアベイラビリティ: BA) を有する薬物および製剤の開発は、有効性と安全性の高い医薬品の開発に必須である。経口製剤からのBAは、生体および薬物の様々な要因が複雑に関与しており、BAの全容解明は喫緊の課題となっている。そこで、本研究室では、生体および薬物の物理化学的側面からBAの全容解明を目指した研究を行う。具体的な研究課題は、以下のような項目である。

過飽和現象、消化管流体力学、製剤-薬物間相互作用、生体成分-薬物間相互作用、食事成分-薬物間相互作用、構造膜透過性相関、構造溶解度相関、原薬形態最適化、製剤のパフォーマンス安定性、生物学的同等性、個体間および個体内差、消化管代謝、トランスポーター、その他関連項目。



## <生体機能薬学分野>

### 神経発生システム研究室 担当教員／小池 千恵子 博士（薬学）

私たちは、毎日の生活における認識や行動の多くを視覚情報に依存している。網膜は哺乳類において、光情報を神経情報に変換する唯一の神経組織である。視覚情報は、大脳皮質視覚野で分解・統合といった情報処理が行われることは良く知られているが、光情報が入力する第一段階の組織である網膜においてまず基本となる重要な情報処理が行われている。

本研究室では、網膜の情報処理の中心となるON・OFF回路に注目した、網膜回路による視覚応答制御の階層横断的解析を行っている。

### 生体情報制御学研究室 担当教員／鈴木 健二 医学博士

タンパク質のリン酸化とそれに関わる情報伝達分子の相互作用に焦点をあて、様々な疾患メカニズムや治療法の開発に繋がる研究を行う。具体的には、「肥満」と「糖尿病」をつなぐ脂肪細胞とマクロファージの相互作用の分子メカニズムを解明する研究や、神経変性疾患でみられる細胞死の制御原理を明らかにする研究を行っている。

脂肪酸とその代謝産物であるケトン体は、細胞のエネルギー源としての役割に加えて、細胞間のシグナル伝達分子としての機能を有することが明らかとなり、代謝疾患やがん、神経変性疾患などの病態との関係から関心が高まっている。ケトン体（ $\beta$ -ヒドロキシ酪酸）に対する特異的な受容体や輸送担体の、様々な疾患における治療標的としての可能性を探索する研究を展開している。

### 細胞工学研究室 担当教員／高田 達之 農学博士

我々ヒトの体は、約200種類からなる37兆個の細胞により構成され、これらが1つのシステムとして機能している。発生は、ゲノム情報からこのような多種類、多数の細胞を系統的に生み出し、統合する過程でもあり、それには多様かつ精密なシグナル伝達に関与している。現代社会は医薬品をはじめ多くの化学物質によって支えられているが、これらが発生過程のシグナル伝達に干渉し、不妊やアレルギー、がん化など個体に変化をもたらす可能性が考えられる。本研究室では、様々な外因性因子が発生、細胞分化に関するシグナル伝達を介して個体形成に与える影響に注目し、ヒトiPS細胞、ゼブラフィッシュ胚を用いてそのメカニズムの解明を試みている。また幹細胞生物学を利用した琵琶湖固有種の保存研究も行なっている。

## <薬物作用解析学分野>

薬効解析科学研究室 担当教員／北村 佳久 薬学博士

本研究室では、「脳」を対象とし、薬理的な研究を行っている。脳には、全身機能を調節する神経細胞とそれをサポートするグリア細胞（アストロサイト、ミクログリアなど）、栄養を供給する脳血管が存在し、お互いが協調しながら、脳内活動を営んでいる。しかし、老化、遺伝的原因、事故などにより脳のホメオスタシスが破綻したとき、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳卒中（脳出血・脳梗塞）などの脳の病気が発症する。超少子高齢化社会を迎えた現代、老化とともに発症頻度の高まる、このような疾患の治療薬開発は急務の課題であり、多くの製薬企業もこの分野に参入しているが、残念ながら、根本的治療が期待できる特効薬はない。本研究室では、実験動物（ラット・マウス・プラナリアなど）やヒト由来培養細胞を用いて脳疾患発症メカニズムの解析から創薬ターゲットの探索や薬物シードと考えられる薬物の作用機序の解明および創薬研究を展開している。

臨床薬理学研究室 担当教員／服部 尚樹 医学博士

薬物の適正使用は臨床薬学において重要なテーマである。本研究室では、内分泌疾患における薬物の適正使用に関連する研究を行っている。脳下垂体ホルモンであるプロラクチンに対する自己抗体が原因で生じるマクロプロラクチン血症、甲状腺刺激ホルモン(TSH)に対する自己抗体が原因で生じるマクロTSH血症、卵胞刺激ホルモン(FSH)に対する自己抗体が原因で生じるマクロFSH血症見いだした。これらの大分子ホルモンはクリアランスの低下から血中濃度が高値を示すが、生物活性が低いため補償療法は不要である。誤診により不適切な薬物治療がなされている症例が多数存在することが予想される。本研究室には全国から測定依頼があり、検査結果を臨床現場に還元している。また、悪玉アディポカインのレプチンと善玉アディポカインのアディポネクチンの高感度酵素免疫測定法を確立し、ヒト白色脂肪細胞におけるレプチンとアディポネクチンの分泌に対する高血圧、脂質異常症、抗糖尿病薬の影響について研究している。

以上

**大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程進学に関するアンケート**  
(博士学位を取得するための大学院です)

所属学部・研究科	学部	研究科
所属学科（大学院生 の場合は専攻とコース）		
回生	(いずれかに○) 1 回生・2 回生・3 回生・4 回生	

**Q1**

立命館大学では、2021年4月に「大学院薬学研究科薬科学専攻博士課程」を立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)に設置すべく準備を進めております。本専攻は「薬を生み出す創薬研究者」の育成を目的としており、高度な薬科学の専門知識および優れた研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成することを目的としています。  
あなたは、立命館大学の「薬学研究科薬科学専攻博士課程」について、興味はありますか？  
(1つ選択)

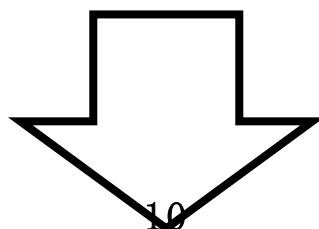
- 興味がある
- 少し興味がある
- あまり興味がない
- 全く興味がない

**Q2**

立命館大学「薬学研究科薬科学専攻博士課程」に進学したいと思いますか？  
(1つ選択)

- ぜひとも進学したい
- 合格した場合、併願大学の結果によっては進学したい
- あまり進学したくない
- 全く進学したくない
- わからない

Q2 の選択肢『ぜひとも進学したい』、『合格した場合、併願大学の結果によっては進学したい』のなかでいずれかを選択した場合は裏面にお進みください。



Q3

薬学研究科薬科学専攻修士課程を修了し、博士課程に進学したい理由についてお答えください。(複数選択可)

- 創薬科学について学修・研究をより深めたいから
- 国際的に活躍する研究者を目指しているから
- 大学教員になりたいから
- その他 (自由記述)

Q4

あなたが薬学研究科薬科学専攻博士課程に進学した場合、希望の進路をお答えください。(1つ選択)

薬学に関する高度な専門的知識と研究力および強い使命感・高い倫理観を備え、

- 製薬会社や化学メーカーの研究・開発部門で活躍を目指す
- 国家や地方自治体の衛生行政部門や企業等の医療情報部門で活躍を目指す
- 博士課程でさらに研究を発展させ、大学教員やアカデミアでの研究職を目指す
- その他 (自由記述)

ご協力ありがとうございました。

1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料2（12ページ）  
2019年度（令和元年度）私立薬科大学（薬学部）大学院入学志願者調
2. 出典  
一般社団法人日本私立薬科大学協会
3. 引用範囲  
「日本私立薬科大学協会だより」第94号 82ページ～83ページ

# プレミアムパネル 実施レポート

## 実施概要：外部入学編

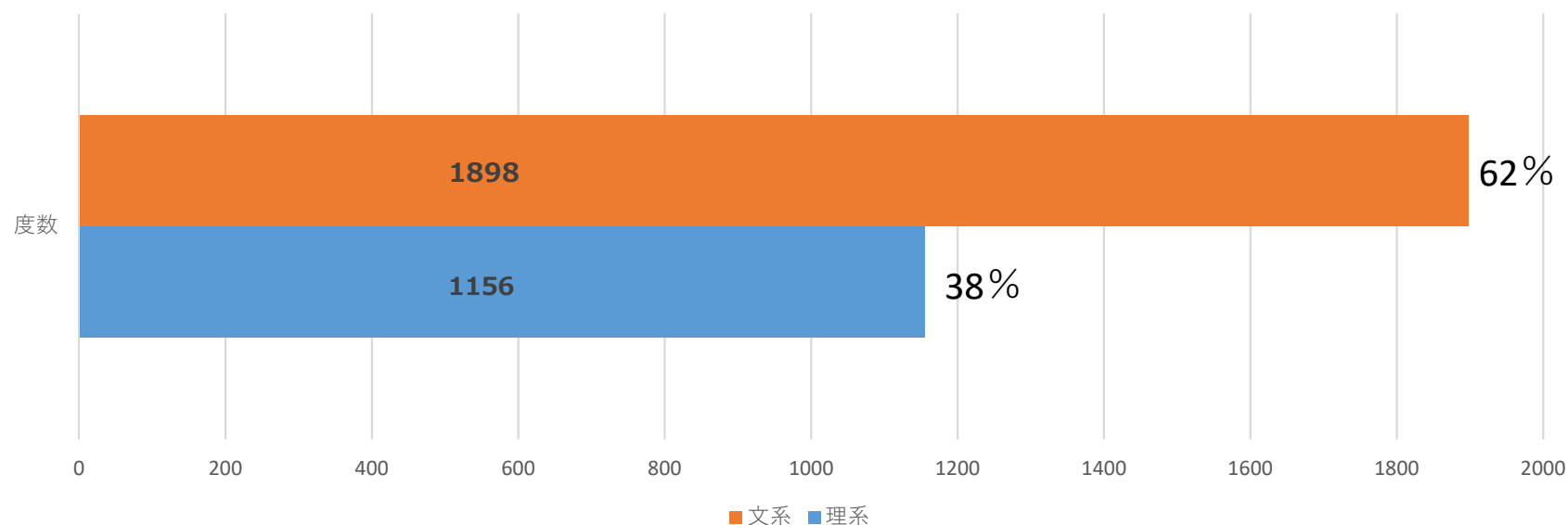
- タイトル : 大学院の新設学科に関するアンケート【外部入学】
- 実施期間 : 2018年11月5日～2018年12月5日
- 調査媒体 : dポイントクラブ> dポイントクラブアンケート (NTTドコモ)
- 回答方法 : スマートフォン (spモード端末)
  
- 配信対象
  - 性別 : 男女
  - 居住地域 : 全国
  - その他条件 : 大学3回生・4回生
  - 後付けセグメント : 性別/年代 (5歳刻み) / 県/地区/学年
  
- 回収目標 : 1,700件
  
- 回収実績 : 3,054件
  
- リンク率 : 全体/11.2% (クリック数 : 343件 / 回収数 : 3,054件)

※プレミアパネルの平均クリック率が10%前後

**[Q1] Q1 あなたの専門は、理系と文系のどちらですか？（回答は1つ）**

	度数	%
TOTAL	3054	100.0
理系	1156	37.9
文系	1898	62.1

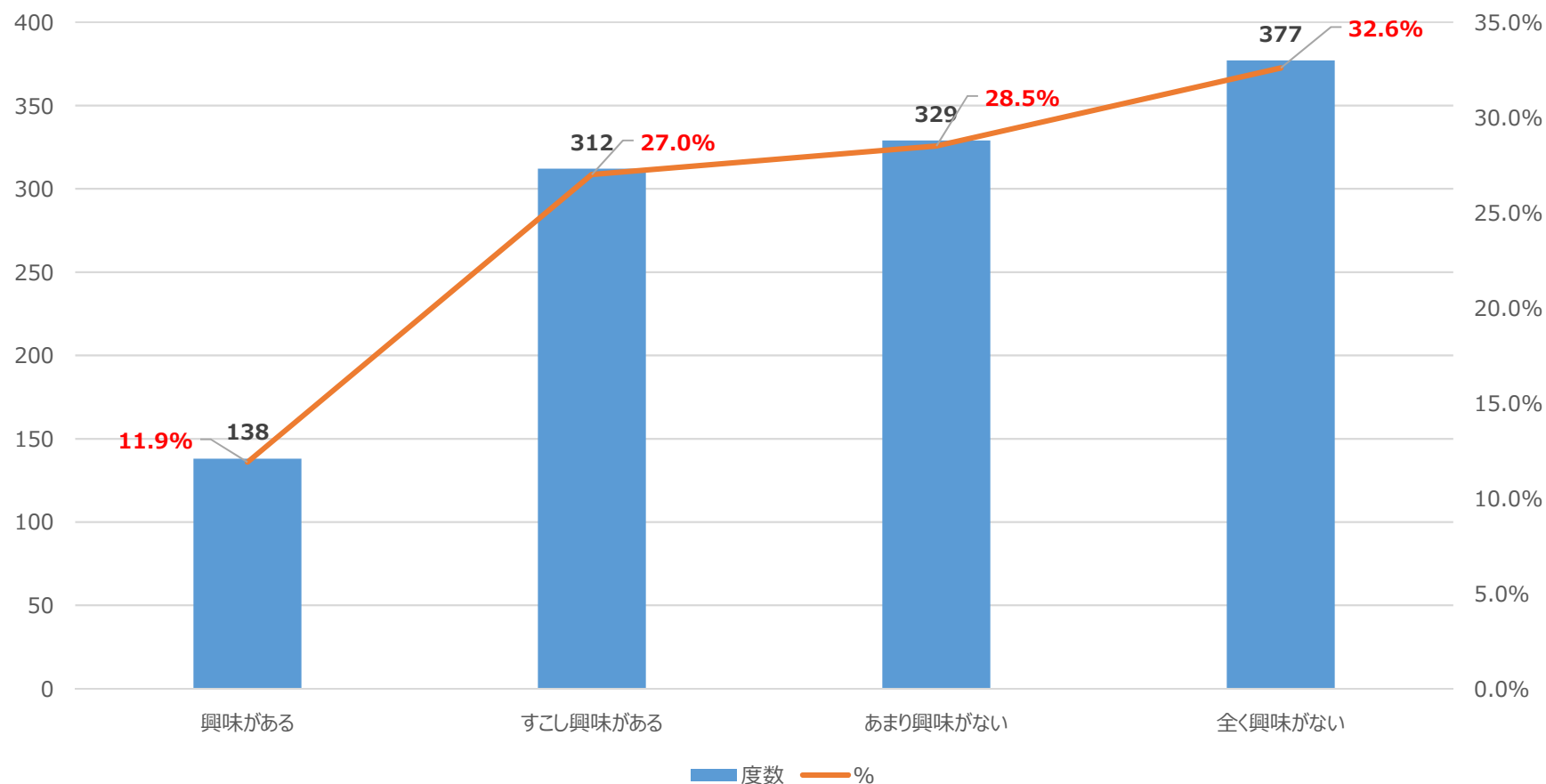
**文系・理系の割合**



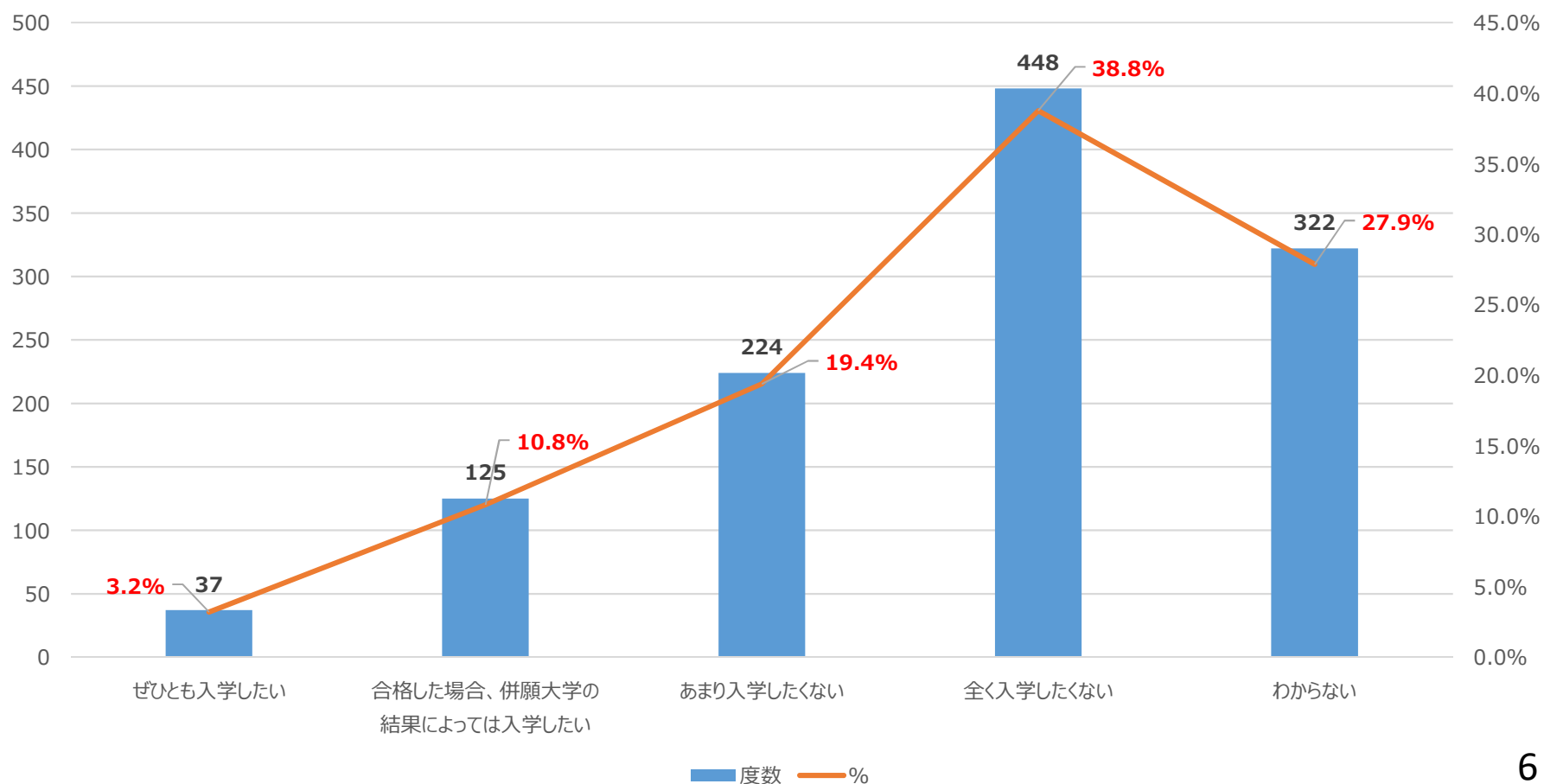


# 理系

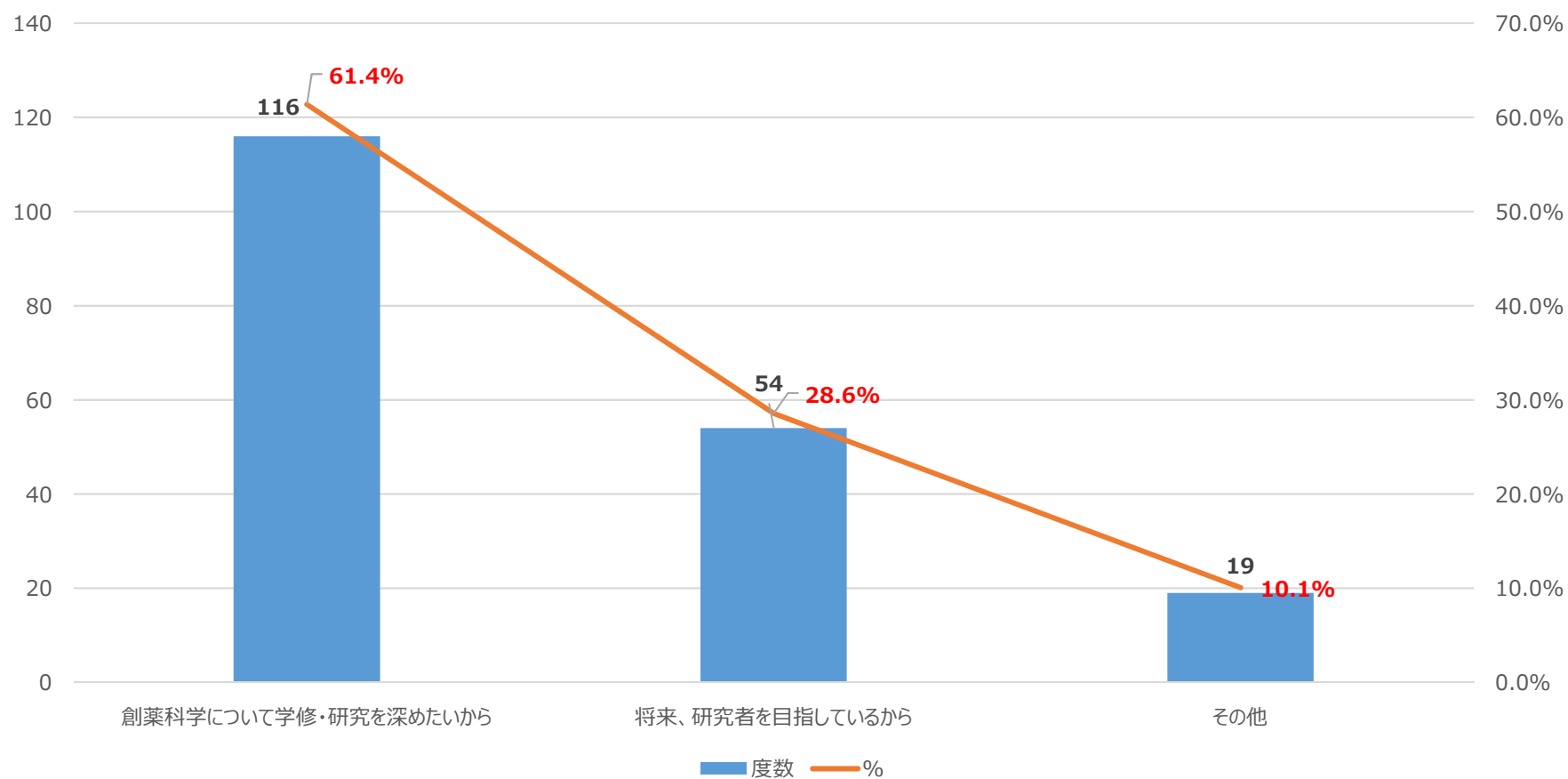
[Q2] Q2 立命館大学では、2020年4月に「大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程」を立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)に設置すべく準備を進めております。本専攻は「薬を生み出す創薬研究者」の育成を目的としており、医薬品等の創製を中心とする学際的な薬科学の専門知識と研究力を備え、教育機関、研究機関、産業界、衛生行政などで貢献できる人材を育成します。あなたは、立命館大学の「薬学研究科修士課程」について、関心はありますか？  
(回答は1つ)



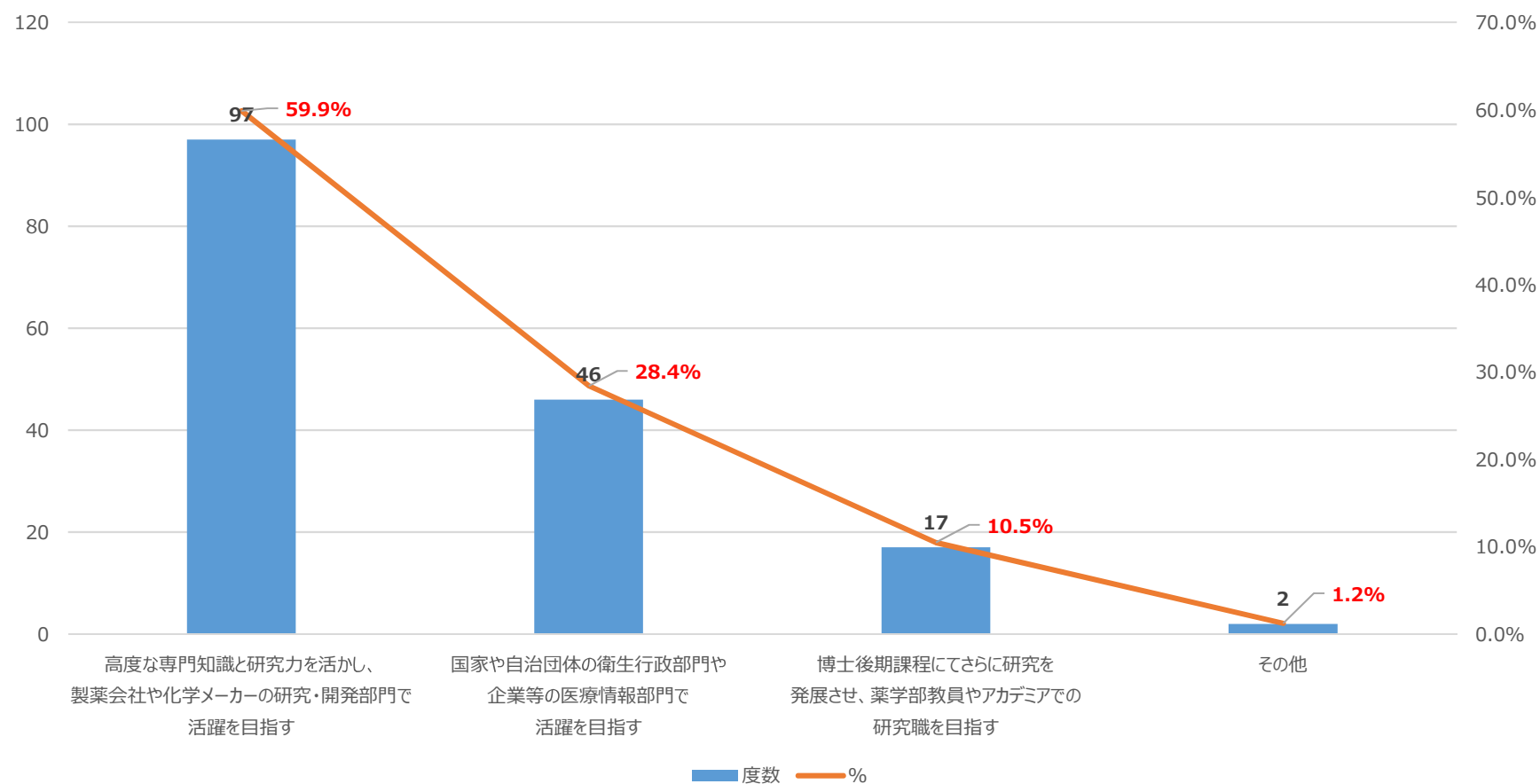
[Q3] Q3 立命館大学「薬学研究科薬科学専攻修士課程」に入学したいと思いますか？  
(回答は1つ)



[Q4] Q4 薬学研究科薬科学専攻修士課程に入学したい理由についてお答えください。  
(回答はいくつでも)



[Q5] Q5 あなたが薬学研究科薬科学専攻修士課程に入学した場合、希望の進路をお答えください。  
(回答は1つ)



# 設置構想中

※下記内容は、設置構想中の計画です。大学名、研究科・専攻の名称、教育内容、募集人員、募集開始時期、入学者選抜方法等については、現時点での予定であり、変更があり得ることをご了承ください。

2018年11月

## 立命館大学大学院薬学研究科薬科学専攻（仮称）修士課程について

### (1) 専攻名称、学位名称

基礎となる学科は「創薬科学科」であるが、本専攻の名称は、より広い領域を対象とする教育と研究を行うことから「薬科学専攻」とする。

学位および学位に付記する名称は、「修士（薬科学）」とする。

研究科・専攻・学位等についての英文表記は、次のとおり。

研究科名	専攻名	学位
薬学研究科 Graduate School of Pharmacy	薬学専攻 Major in Pharmacy	博士（薬学） Doctor of Pharmacy
	薬科学専攻 Major in Pharmaceutical Sciences	修士（薬科学） Master of Pharmaceutical Sciences

(2) 開設年度：2020年4月

(3) 定員：入学定員：20名、収容定員：40名

(4) 学費：現在検討中ですが、立命館大学の理系大学院と同水準となることを想定しています。

### 設置場所

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス



駅名	所要時間	備考
京都 中書島駅	約30分	平日 中書島発15便 大学発14便 (土日祝は運行しません。)
JR 大津駅	約25分	平日16往復(土日祝は運行しません。)
JR 大阪駅	JR 47分	
JR 京都駅	JR 17分	
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄 (京都駅経由)約60分	
JR 三ノ宮駅	JR 約70分	
近江鉄道バス	約10分	「立命館大学行き」または「立命館大学経由「飛鳥グリーンヒル行き」」

薬学研究科薬科学専攻修士課程では、修了時点において学生が身につけるべき能力（教育目標）として下記の4点を定めます。所定科目30単位以上の修得と薬学研究科が定める学位（修士）論文評価基準に基づく修士論文審査の合格をもってその達成とみなし、修士（薬科学）の学位を授与します。

- ① 薬学および生命科学領域の知識を基礎として、医薬品等の創製を中心とした薬科学の専門知識を有する。
- ② 高い倫理観を持って医薬品等の研究開発や教育研究、衛生行政に貢献できるような、問題発見・解決能力、論理的思考能力を有する。
- ③ 日本語で論理的な学術論文の作成やプレゼンテーションができる。
- ④ 国際社会で活躍するために、薬科学分野の専門知識を用いた英語での基本的なコミュニケーションができる。

幅広い薬科学研究分野を対象とするため、専攻内に薬品分子創製化学、生体分子解析学、薬物動態解析学、生体機能薬学、薬物作用解析学の5つの分野を設定し、専門分野に応じた基盤的な知識及び先端的な研究技術が取得できる教育体制とする。薬品分子創製化学分野は有機化学、天然物化学を、生体分子解析学分野は物理化学、分析化学、衛生化学を、薬物動態解析学分野は薬剤学、製剤学、安全性評価学を、生体機能薬学分野は生化学、衛生化学を、薬物作用解析学分野は薬理学、有効性評価学を基盤とし、別紙のカリキュラムを予定しています。将来像に合わせた体系的履修が可能となるよう、以下の履修モデルも提示します。

#### **履修モデル1：高度な専門知識と研究力を活かし、製薬会社や化学メーカーの研究・開発部門で活躍を目指す**

医薬品の創製には、生体を構成する分子から細胞、個体レベルにおける薬物作用の理解、さらには合成医薬品や生薬・天然物医薬品、抗体医薬品などの幅広い知識が必要となる。化学・物理系分野（薬品分子創製化学分野、生体分子解析学分野）では、医薬品の合成や生体分子の構造、機能、安定性について深い知識を習得し、生物系分野（薬物動態解析学分野、生体機能薬学分野、薬物作用解析学分野）では、生体機能、疾患に関わる病理や薬物作用、薬物動態について深い知識を習得する。また、演習や特別研究を通じ問題発見・解決能力、論理的思考能力を醸成することが望まれる。所属分野の必修科目に加え、「公衆衛生・国際保健特論」「研究開発・知的財産特論」を履修することが推奨される。さらに、臨床に関わる科目を履修することにより、創薬や臨床開発に関わる広い知識を習得することが望まれる。

#### **履修モデル2：国家や自治団体の衛生行政部門や企業等の医療情報部門で活躍を目指す**

国家や自治団体における衛生行政（保健行政と医療行政）部門や、企業等にて医薬品の情報管理や医療情報担当者として活躍するためには、薬科学や生命科学に関する専門知識とともに、公衆衛生や臨床開発に関わる医薬品評価や医療情報についての専門知識も必要となる。各分野における専門知識の習得に加え、薬物動態や薬物作用、医薬品の安全性評価、公衆衛生に関わる知識を習得する。演習や特別研究を通じ問題発見・解決能力、論理的思考能力を醸成することが望まれる。所属分野の必修科目に加え、「薬物動態解析学特論」「薬物作用解析学特論」「公衆衛生・国際保健特論」を履修し、「基礎医療情報学特論」「医療品評価学特論」「基礎生活習慣病特論」を履修することが望まれる。

#### **履修モデル3：さらに博士後期課程にて研究を発展させ、薬学部教員やアカデミアでの研究職を目指す**

将来に薬学部教員やアカデミアでの研究職を目指す学生は、医薬品創製に関わる広く深い知識とともに、演習や特別研究を通じて、専門分野における科学研究の動向を把握し問題発見・解決に取り組む力、科学的根拠と論理的思考に基づいた研究論文の作成能力が必要である。また、世界に向けて英語で情報発信できる力、英語でのコミュニケーション能力を醸成する必要がある。薬科学に関わる多くの専門科目を重点的に履修することが望ましい。また、英語での情報発信力やコミュニケーション能力の醸成のために、「英語 GP」を履修することが望ましい。

## カリキュラム概要 (案)

専門科目	コア	薬品分子創製化学特論
		生体分子解析学特論
		薬物動態解析学特論
		生体機能薬学特論
		薬物作用解析学特論
		分析神経科学特論
		生命有機化学特論
		公衆衛生・国際保健特論
		研究開発・知的財産特論
		専門英語
	選択	創剤学特論
		病原微生物学・感染症学特論
		臨床治療学特論
		天然薬物学特論
		臨床副作用学特論
		分子病態学特論
		分子生物薬剤学特論
		生理・構造生物学特論
		幹細胞生物学特論
		生活習慣病特論
医薬品安全評価学特論		
医療情報分析学特論		
自由科目	選択	技術者実践英語
薬科学研究科目	演習	演習 1
		演習 2
		演習 3
		演習 4
	特別実験	特別実験 1
		特別実験 2
		特別実験 3
		特別実験 4

## 研究室概要(案)

### <薬品分子創製化学分野>

#### 薬品分子化学研究室 担当教員／梶本 哲也 薬学博士

本研究室は、天然物化学および有機合成化学をバックグラウンドとして、天然物の合成、化学修飾、天然物類似体の合成を行いながら、医薬品シードとなり得る生理活性物質の探索を研究テーマとする。特に、糖グリコシド、ステロイド配糖体、イミノ糖ならびにその類縁体の生物活性に注目し、これら有機化合物の一般的かつ効率的な合成法を確立したいと考えている。現在、本目標の1つを達成すべく、無臭チオールを活性化基とするチオグリコシドを用いて、環境に優しいグリコシル化反応の検討を開始している。

#### 精密合成化学研究室 担当教員／土肥 寿文 博士(薬学)

有機合成化学を通じて、新しい創薬リード化合物を生み出したり、くすりの望みとする機能を大きく引き出したりすることができる。現在、欲しい医薬品を理論的に設計する時代が到来しつつあり、創薬の場においてますます有機合成の活躍する環境が整ってきた。当研究室ではこれまで、創薬研究に役立つ有機合成の知識と技術の伝承に携わりながら、持続可能で未来に残る精密有機合成を一つの指針として追及してきた。独



自に開発した合成化学手法を用いて、優れた生物活性を持つ天然物や生物活性物質の類縁体を合成し、創薬開発候補とする研究開発を目指す。

#### **生命薬化学研究室 担当教員／古徳 直之 博士(薬学)**

医薬シーズとしての有用性が高い生物活性天然物について、引き続き構造活性相関研究を進めるとともに、その情報をもとにして、活性発現のメカニズムを解明するための分子プローブを設計し、合成する。

#### **<生体分子解析学分野>**

##### **生体分子構造学研究室 担当教員／北原 亮 博士(理学)**

蛋白質が異常をきたすと、アルツハイマー病に代表される神経変性疾患や癌など様々な病気につながる。蛋白質の構造を原子レベルで理解することにより、機能発現や病気のメカニズムの分子論的な解釈が可能となる。数千気圧の高圧力実験から、溶液中の蛋白質がもつ多様なコンフォメーションの存在を明らかにする。構造変化は、コンフォメーション間の化学平衡の変化を意味し、分子の機能の高さや凝集性などその性質と直接関係する。このような蛋白質構造の研究から、医薬品開発における新しい方法論の開発を行う。

##### **生体分析化学研究室 担当教員／豊田 英尚 薬学博士**

糖鎖は、がんや糖尿病、ウイルス感染のほか、免疫機能とも関わり、あらゆる生命現象を解く鍵である。薬学研究では、生物薬品における糖鎖が薬効や安全性に影響をあたえるため、非常に重要な研究対象である。当研究室では糖鎖の機能解明を目的として、医薬品開発に役立つ研究を行うほか、ES 細胞や iPS 細胞における糖鎖の質的・量的な解析を行い、再生医療への貢献を目指している。具体的には、生体内糖鎖の中でも特に分析が難しい、グリコサミノグリカン(ヒアルロン酸、ヘパリン・ヘパラン硫酸、コンドロイチン硫酸、ケラタン硫酸)などの酸性多糖に関する超微量分析法の開発を行っている。また、iPS 細胞表面や ES 細胞表面に発現する特異的な糖鎖エピトープが細胞リプログラミングや分化において果たす生物学的役割を解析して、その活性糖鎖の化学構造を解明することにより、再生医療に役立つ細胞培養技術に必要な基盤知識の獲得を目指している。

#### **<薬物動態解析学分野>**

##### **分子薬物動態学研究室 担当教員／藤田 卓也 博士(薬学)**

医薬品とは、特定の薬理効果を持つ有機化合物にその有効性と安全性を保障する十分な情報と、確実にヒトに投与されるための技術が付与された一つのシステムと考えられる。近年、ゲノム情報に基づいた論理的な医薬品開発が理論上は可能となってきている。こうしたゲノム創薬をはじめとした新薬開発研究は、非常に魅力的であり、注目が集まりがちであるが、その有効性と安全性が確保されなければ決して医薬品としての医療現場に供されることはない。そのため、新規医薬品の開発には、薬物の体内動態研究に基づいた化合物の最適化、有効性と安全性に関する proof of concept の検証、さらには適切な投与システムの開発が必須となる。医薬品の体内動態、薬物の吸収(A:absorption)、分布(D:distribution)、代謝(M:metabolism)、排泄(E:elimination)、毒性(Tox:toxicity)により規定されるが、これらの生体内反応にかかる分子機構は極めて複雑で、未だ十分に解明されているとはいえない。本研究室では、こうした ADME-Tox 研究の中で、主として薬物吸収に焦点をあて、探索段階における新規開発化合物のヒトでの吸収性予測や製剤設計の合理化に関する研究、および創薬ターゲットとしてのトランスポーターの探索を進めている。

##### **分子薬剤学研究室 担当教員／菅野 清彦 博士(薬学)**

良好な生物学的利用率(バイオアベイラビリティ:BA)を有する薬物および製剤の開発は、有効性と安全

性の高い医薬品の開発に必須である。経口製剤からのBAは、生体および薬物の様々な要因が複雑に関与しており、BAの全容解明は喫緊の課題となっている。そこで、本研究では、生体および薬物の物理化学的側面からBAの全容解明を目指した研究を行う。具体的な研究課題は、以下のような項目である。

過飽和現象、消化管流体力学、製剤-薬物間相互作用、生体成分-薬物間相互作用、食事成分-薬物間相互作用、構造膜透過性相関、構造溶解度相関、原薬形態最適化、製剤のパフォーマンス安定性、生物学的同等性、個体間および個体内差、消化管代謝、トランスポーター、その他関連項目。

## <生体機能薬学分野>

### 神経発生システム研究室 担当教員／小池 千恵子 博士(薬学)

私たちは、毎日の生活における認識や行動の多くを視覚情報に依存している。網膜は哺乳類において、光情報を神経情報に変換する唯一の神経組織である。視覚情報は、大脳皮質視覚野で分解・統合といった情報処理が行われることは良く知られているが、光情報が入力する第一段階の組織である網膜においてまず基本となる重要な情報処理が行われている。私達は、網膜の情報処理の中心となる ON・OFF 回路に注目した、網膜回路による視覚応答制御の階層横断的解析を行っている。

### 生体情報制御学研究室 担当教員／鈴木 健二 医学博士

生体情報制御学では、タンパク質のリン酸化とそれに関わる情報伝達分子の相互作用に焦点をあて、様々な疾患メカニズムや治療法の開発に繋がる研究を行う。具体的には、「肥満」と「糖尿病」をつなぐ脂肪細胞とマクロファージの相互作用の分子メカニズムを解明する研究や、複雑なシグナルネットワークに潜む制御システムを抽出してその制御原理を明らかにする研究、環境汚染物質が生体に及ぼす影響を解析する研究を行う。

### 細胞工学研究室 担当教員／高田 達之 農学博士

我々ヒトの体は、約 200 種類からなる 60 兆個の細胞により構成され、これらが 1 つのシステム(個体)として統合され、機能している。これらの基となった細胞、ゲノム情報は 1 つであり、発生の過程でこのような多種類、多数の細胞が生み出される。この分化過程には様々なシグナル伝達に関与し、エピジェネティックな遺伝子発現変化を生じさせている。また、iPS 細胞の確立により、初期化現象の解析も可能となってきた。細胞工学研究室では、細胞分化、初期化メカニズム解析の観点から、マウスおよび霊長類の ES、iPS 細胞を用いた生殖細胞分化、環境化学物質が幹細胞分化に与える影響、発生に伴う DNA メチル化の変動に焦点をあて、研究を展開している。

## <薬物作用解析学分野>

### 薬効解析科学研究室 担当教員 / 北村 佳久 薬学博士

薬効解析科学研究室では、「脳」を対象とし、薬理学的な研究を行っている。脳には、全身機能を調節する神経細胞とそれをサポートするグリア細胞(アストロサイト、ミクログリアなど)、栄養を供給する脳血管が存在し、お互いが協調しながら、脳内活動を営んでいる。しかし、老化、遺伝的原因、事故などにより脳のホメオスタシスが破綻したとき、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳卒中(脳出血・脳梗塞)などの脳の病気が発症する。超少子高齢化社会を迎えた現代、老化とともに発症頻度の高まる、このような疾患の治療薬開発は急務の課題であり、多くの製薬企業もこの分野に参入しているが、残念ながら、根本的治療が期待できる特効薬はない。薬効解析科学研究室では、実験動物(ラット・マウス・プラナリアなど)やヒト由来培養細胞を用いて脳疾患発症メカニズムの解析から創薬ターゲットの探索や薬物リードと考えられる薬物の作用機序の解明および創薬研究を展開している。

### **臨床薬理学研究室 担当教員 / 服部 尚樹 医学博士**

薬物の適正使用は臨床薬学において重要なテーマである。本研究室では内分泌疾患における薬物の適正使用に関連した研究を行っている。高プロラクチン血症の治療にはドパミン作動薬が用いられるが、消化器症状などの副作用が強い。本研究室ではプロラクチンに対する自己抗体が原因であり、高プロラクチン血症の新たな原因となる「マクログラクチン血症」を見出した。その基礎的、臨床的研究を通して、本疾患に対する薬物治療の必要性について検討している。インスリンを使用している糖尿病患者で、インスリンに対する自己抗体ができる場合があり、インスリン抵抗性の原因になっている。本研究室ではインスリン自己抗体産生に対する基礎的、臨床的検討を行っており、*in vitro* で適正なインスリンへの変更の提案ができないか検討している。これらの研究は京都医療センターや神戸医療センターなどと共同で実施している。

### 他大学の学生納付金の状況

大学名	修了（3年間）に必要な 学生納付金の金額（円）
本学	1,700,000
東北医科薬科大学	2,540,000
城西大学	3,650,000
千葉科学大学	3,140,000
北里大学	2,450,000
慶應義塾大学	3,150,000
東京理科大学	2,600,000
星薬科大学	2,500,000
武蔵野大学	2,050,000
明治薬科大学	2,240,000
京都薬科大学	2,200,000
大阪薬科大学	1,600,000
近畿大学	3,180,000
武庫川女子大学	2,782,000

※本資料は、2019年12月13日～2019年12月20日の期間に各大学のホームページを閲覧して作成した。

※学生納付金には、授業料に加え、入学金、施設整備費、実験実習費などの、名目に関わらず学生から徴収する費目を含んでいる。

1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料5（28ページ）

一般社団法人薬学教育協議会 平成31年3月薬学系大学卒業生および大学院修了者の就職動向調査結果報告書

2. 出典

一般社団法人薬学教育協議会

3. 引用範囲

[https://yaku-kyou.org/wp/wp-](https://yaku-kyou.org/wp/wp-content/uploads/2019/12/67a3076ec6784649223344e4c548ddaf.pdf)

[content/uploads/2019/12/67a3076ec6784649223344e4c548ddaf.pdf](https://yaku-kyou.org/wp/wp-content/uploads/2019/12/67a3076ec6784649223344e4c548ddaf.pdf)

1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料6（34 ページ）

文部科学省 薬学系大学院専攻別一覧 2019 年（平成 31 年・令和元年）度

2. 出典

文部科学省

3. 引用範囲

[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2019/08/30/1352588\\_8.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/08/30/1352588_8.pdf)

1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」資料7

医薬品企業売上高トップ20社の本社・研究所・工場の所在地（36ページ）

2. 出典

日本経済新聞社

3. 引用範囲

医薬品企業売上高トップ20社の本社・研究所・工場の所在地

[https://www.nikkei.com/markets/ranking/page/?bd=uriage&ba=0&Gcode=09  
&hm=1](https://www.nikkei.com/markets/ranking/page/?bd=uriage&ba=0&Gcode=09&hm=1)

4. 説明

著作物のデータをもとに各社ホームページを参照し、一覧表を作成した。また、所在地が近畿圏のものには下線を付した（2018年度作成）。

企業アンケート集計結果(119社)

Q1	薬学系の修士課程を修了した人材は御社にとって必要です	①	そう思う	70	
		②	ややそう思う	25	
		③	どちらともいえない	16	
		④	あまりそう思わない	3	
		⑤	そう思わない	4	
Q2	御社において、薬学系の修士課程を修了していることは強みになりますか？	①	そう思う	64	
		②	ややそう思う	33	
		③	どちらともいえない	16	
		④	あまりそう思わない	3	
		⑤	そう思わない	3	
Q3	(Q2で①②を回答された方のみ) 薬学系の修士課程を修了していることは、どの分野において強みになりますか？	①	研究	60	27.4%
		②	開発	71	32.4%
		③	医薬情報担当者	35	16.0%
		④	学術	37	16.9%
		⑤	その他	16	7.3%
Q4	薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得した人材は御社にとって必要ですか？	①	そう思う	34	28.6%
		②	ややそう思う	26	21.8%
		③	どちらともいえない	38	
		④	あまりそう思わない	14	
		⑤	そう思わない	7	
Q5	御社において、薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得していることは強みになりますか？	①	そう思う	36	30.3%
		②	ややそう思う	32	26.9%
		③	どちらともいえない	32	
		④	あまりそう思わない	15	
		⑤	そう思わない	4	
Q6	(Q5で①②を回答された方のみ) 薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得していることは、どの分野において強みになりますか？	①	研究	48	35.8%
		②	開発	45	33.6%
		③	医薬情報担当者	13	9.7%
		④	学術	19	14.2%
		⑤	その他	9	6.7%
Q7	薬学系の修士課程を修了した人材が増えることは望ましいと思いますか？	①	そう思う	50	
		②	ややそう思う	35	
		③	どちらともいえない	28	
		④	あまりそう思わない	5	
		⑤	そう思わない	1	



Q8-1	立命館大学薬学部が構想している修士課程「薬科学専攻（仮称）」について、どのような印象を持ちましたか？以下の質問に対して、当てはまる項目をお選びください。輩出する人材（終了後）は、これからの社会において需要が高い。	①	そう思う	44
		②	ややそう思う	46
		③	どちらともいえない	21
		④	あまりそう思わない	5
		⑤	そう思わない	2
Q8-2	将来性がある。	①	そう思う	37
		②	ややそう思う	52
		③	どちらともいえない	26
		④	あまりそう思わない	2
		⑤	そう思わない	2
Q8-3	修了後の進路がイメージしやすい。	①	そう思う	33
		②	ややそう思う	48
		③	どちらともいえない	30
		④	あまりそう思わない	5
		⑤	そう思わない	2
Q8-4	就職に有利である。	①	そう思う	31
		②	ややそう思う	46
		③	どちらともいえない	34
		④	あまりそう思わない	4
		⑤	そう思わない	3
Q8-5	受験生や保護者の関心が高い。	①	そう思う	24
		②	ややそう思う	37
		③	どちらともいえない	51
		④	あまりそう思わない	7
		⑤	そう思わない	0
Q8-6	立命館大学大学院薬学研究科「薬科学専攻（仮称）修士課程」の教育・研究に期待できる。	①	そう思う	44
		②	ややそう思う	55
		③	どちらともいえない	19
		④	あまりそう思わない	1
		⑤	そう思わない	0
Q8-7	立命館大学大学院薬学研究科「薬科学専攻（仮称）修士課程」の卒業生を採用したいですか？	①	採用したい	39
		②	採用を検討したい	46
		③	どちらともいえない	29
		④	その他	5
自由記述欄	ご意見などお寄せください			26

2017年11月吉日

医薬品関連企業 人事ご担当者 殿

立命館大学  
薬学部長・薬学研究科長  
服部 尚樹  
(公印省略)

立命館大学大学院薬学研究科薬科学科（仮称）修士課程  
設置に関するアンケート調査(ご依頼)

拝啓 晩秋の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素より、本学の教育・研究に関しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、本学では2015年4月に既存の薬剤師養成を目的とする6年制薬学科に加え、薬学研究者育成を目的とする創薬科学研究科を新設し、「薬を中心に据えた」人の健康に関わる自然科学を基盤とした、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」の専門知識と技術の習得を通じ、医薬品創製の分野で社会に貢献できる人材育成を目指し教育・研究に取り組んでまいりました。

ご存知のとおり、薬学研究者を育成するためには、学部での教育のみでは十分にその機能を果たすことができず、学部をベースとした大学院レベルの教育を行うことが必須でございます。

これらの背景から、本学薬学部創薬科学科の第1期卒業生を送り出す2019年に、既設の大学院薬学研究科に「薬科学専攻（仮称）修士課程」を新設したいと考えております。

つきましては、貴社より「薬科学専攻（仮称）修士課程」に対する率直なご意見、ご要望を含めて、別紙アンケートにお答えの上、2017年11月30日までに同封しております返信用封筒にて薬学部事務室までご返信いただきたく存じます。

今後ともより良い薬学教育を展開する努力を継続してゆく所存でございますので、ぜひともご協力賜りますようお願い申し上げます。

敬具

**【本件に関するお問合せ先】**

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1  
立命館大学びわこ・くさつキャンパス  
薬学部事務室  
担当：大淵  
TEL：077-561-2563  
E-mail: obuchi@st.ritsume.ac.jp

# 立命館大学大学院薬学研究科薬科学専攻(仮称) 修士課程の設置について (構想案)

※予定であり変更の可能性がございます。

## 1. 設置の趣旨及び必要性

近年創薬研究の需要はますます増大する一方であり、「日本再興戦略(平成 25 年 6 月閣議決定)」において、医療関連産業は、日本が国際的に強みを持ち、グローバル市場での成長が期待できる戦略分野と認知され、2015 年 6 月に厚生労働省より出された国際薬事規制調和戦略においても、日本の強みを生かした医薬品開発環境の整備やレギュラトリーサイエンスの更なる環境整備を通じて、国際社会の保健衛生向上への一層の貢献が訴えられています。

一方、薬物の適正使用に求められる知識・技能の習得とその進歩を担う薬剤師養成を主な目的とする 6 年制学士課程の入学定員 10,662 名に対し、医薬品の創製・開発・生産、さらには食品・化粧品、環境や衛生分野などの薬学関連領域での研究及び教育に従事する人材養成を目指す 4 年制学科の定員は 835 名、薬学部を有する 56 私大のうち 16 大学に設置されているに過ぎません(文部科学省ホームページ 薬学教育 1. 基礎資料データ:薬科大学(薬学部)学科別一覧(平成 29 年度) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_d/08091815.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm))。

このような背景のもと、医薬品の研究開発整備に伴い予想される人材需要の増大に応えるべく、立命館大学では、2015 年 4 月に 4 年制学士課程である創薬科学科を追加設置いたしました。本学科においては、「薬を中心に据えた」人の健康に関わる自然科学を基盤とし、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」の専門知識と技術の習得を通じ、医薬品創製の分野で社会に貢献できる人材育成を目指しています。

この人材育成目標に則り、また上述の社会的要請をも鑑みて、創薬科学科では、入学時より研究者としての意識付けを行い、基礎薬学系科目の講義・実習を通じて生命科学の幅広い領域の知識と技能を身につけ、生理活性を有する機能性分子の設計・合成や疾病の分子レベルでの理解に基づく新規薬物標的の探索など、医薬品の創製に必須となる高度な専門知識の習得ができるようにカリキュラムを設計しております。学生の向学心は非常に強く、2016 年 6 月における調査では、最上級学年である現3年生において大学院修士課程への進学希望者は、在籍 42 名中 38 名、90.5%に及んでいます。

また、他大学 4 年制課程卒業生の進路状況(一般社団法人 薬学教育協議会「平成 28 年 3 月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査」の集計報告)を見てみると、私立大学薬学部・薬科大学修士課程修了後の進路概況は、医薬品関連企業の研究・開発部門へは 47.9%、関連の化学・食品等企業研究部門を合わせると、希望の研究・開発部門に就職を果たした学生は就職者の 69.4%に及び、学士課程卒業者の同部門への就職数 4.7%と好対照を示しています。この結果は、我が国における「薬を生み出す創薬研究者」の育成には、大学院修士課程と連携した教育・研究指導をとることが、有効に機能することを如実に示していると言えます。

しかしながら、このような医薬品関連企業に創薬人材を供給する立場にある薬科学専攻修士課程は 56 私立大学薬学部・薬科大学のうち、21 大学に設置されているに過ぎず、しかもその総入学定員 367 名のうち5大学の 5 研究科を合わせて 75 名(20.4%)が西日本にあるのみで、東日本地域における偏在が著しい状況です(文部科学省ホームページ薬学教育 1. 基礎資料データ:薬系大学院専攻別一覧(平成 29 年度) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_d/08091815.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_d/08091815.htm))。

このような状況下、薬系企業が多く存在する西日本の滋賀県にあつて唯一の薬学部を擁する本学が、2015年の創薬科学科設置に引き続き、医薬品の創製を中心とする学際的な薬学の専門知識と研究力を備え、研究機関、産業界、衛生行政などに貢献できる人材養成を目的とした薬学研究科薬科学専攻修士課程を設置することは、創薬人材の地域的偏在性の改善に有効であるだけでなく、関西を主たる基盤の一つとする医療関連産業に対し恒常的に質の高い人材の供給を可能にすることから、現今の創薬人材の払底に対する社会的要請に応え、日本再興に貢献する観点からも意義深いと考えます。

## 2. 修士までの構想か、博士課程の設置を目指した構想か

薬学研究科創薬科学専攻(仮称)は、医薬品創製の産業分野や医療・健康増進のための学術研究などに貢献できる人材の育成を目指したものであり、将来的に博士後期課程の設置を目指しています。2019年に「修士課程」の設置認可申請をまず行い、2021年の博士後期課程の課程変更申請の際に修士課程を博士前期課程に変更する予定です。

## 3. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

### (1) 専攻名称、学位名称

基礎となる学科は「創薬科学科」であるが、本専攻の名称は、より広い領域を対象とする教育と研究を行うことから「薬科学専攻」とし、学位および学位に付記する名称は、「修士(薬科学)」とします。

### (2) 開設年度

2019(平成31)年4月

### (3) 定員

入学定員:20名、収容定員:40名

## 4. 教育課程の編成の考え方および特色

### (1) 教育課程編成・実施方針(カリキュラムポリシー)

薬学研究科薬科学専攻修士課程では、修了時点において学生が身につけるべき能力(教育目標)として下記の4点を定め、学生は5つの研究分野(薬品分子創製化学分野、生体分子解析学分野、薬物動態解析学分野、生体機能薬学分野、薬物作用解析学分野)のいずれかに所属して研究指導を受けます。

- ① 薬学および生命科学領域の知識を基礎として、医薬品等の創製を中心とした薬科学の専門知識を有する。
- ② 高い倫理観を持って医薬品等の研究開発や教育研究、衛生行政に貢献できるような、問題発見・解決能力、論理的思考能力を有する。
- ③ 日本語で論理的な学術論文の作成やプレゼンテーションができる。
- ④ 国際社会で活躍するために、薬科学分野の専門知識を用いた英語での基本的なコミュニケーションができる。

## (2)教育課程の編成の体系

立命館大学大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程の教育課程は、「講義」、「演習」および「特別実験」によって編成されます。本課程への入学者は、医薬品、化粧品、食品などや国立医薬品食品衛生研究所に代表される衛生行政に関する多様な分野で専門家さらには医薬品・衛生行政の担い手として活躍することを目指し、薬学部創薬科学科やそれ以外の4年制理系学部を卒業して入学してくる学生を想定しています。これらの学生に対する教育課程は、個々の学生が目的に合った授業科目を履修し、指導教員と共に研究に取り組み、修士論文を作成するものになっており、講義科目は、自らの専門領域を中心に周辺領域の知識を含めて薬学全体にわたる知識の修得ができるよう配慮します。薬科学研究の目的の1つである医薬品の創製は、自然科学の基礎知識と、それらの上に構築される薬学の専門知識の集積を必要とすることから、薬科学専攻における講義は、有機化学、生薬学・天然物化学、物理化学、分析化学、生化学、薬理学、薬剤学、衛生化学を含めた基礎薬学領域と、医薬品の製剤化・有効性評価・安全性評価などを扱う応用薬学領域から構成されています。

幅広い薬科学研究分野をカバーするために、薬品分子創製化学、生体分子解析学、薬物動態解析学、生体機能薬学、薬物作用解析学の5つの分野を設定し、学生は入学時にいずれかの研究分野に所属し、主担当教員による「特別実験」の他、必要に応じて関連分野の複数の教員による助言が行われます。薬品分子創製化学分野は有機化学、生薬学、天然物化学を、生体分子解析学分野は物理化学、分析化学、衛生化学を、薬物動態解析学分野は薬剤学、製剤学、安全性評価学を、生体機能薬学分野は生化学、衛生化学を、薬物作用解析学分野は薬理学、有効性評価学を、それぞれ基盤としたテーマを主要な研究対象としています（別紙1参照）。

「特別実験」では主に実験技術の習得や新しい研究手法の追求に重点がおかれます。それ以外に、研究活動における様々なコミュニケーション能力の構築も重要課題であるので、PBL (Problem Based Learning) 形式の「演習」を指導教員の参加のもと小集団で実施します。自身の研究成果の報告や学会発表の準備、さらには発表とその際に行われる質疑応答を通じて、高度なプレゼンテーション能力の修得に努めます。また、「演習」および「特別実験」を通して、研究の質の向上や研究不正に対する理解を日常的に深めさせ、高い研究倫理観を身につける。

### <国内外の研究機関・研究者との交流>

国内外の研究者や企業との共同研究等を通じて様々な交流が日常的に行われますが、本課程では、国際的に魅力のある大学院教育の構築に向けて、講義科目として「公衆衛生・国際保健」および「研究開発・知的財産」を設定し、さらなる質の向上を目指します。「公衆衛生・国際保健」では、行政や民間機関の研究者による我が国の環境、保健、公衆衛生の実情の説明のみならず、JICA 職員等による発展途上国における疾病予防、健康増進の取り組みの紹介、さらにはJICA インターンシップへの参加も視野に入れた内容を展開します。また「研究開発・知的財産」では、様々な企業の研究者を招いて、企業が求める（海外でも活躍出来る）人材像を中心テーマとした講演を通じて、卒業後の進路や自身のスキルアップの方向性を熟考するための多角的な材料を提供します。

## 5. 設置場所

〒525 - 8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1  
立命館大学 びわこ・くさつキャンパス



京阪 中書島駅	直行便バス 約30分 平日 中書島発15便 大学発14便 (土日祝は運行しません。)	JR 南草津駅	近江鉄道バス 約10分 〔立命館大学行き〕 または 立命館大学経由 〔飛島グリーンヒル行き〕	立命館大学びわこ・くさつキャンパス
JR 大津駅	直行便バス 約25分 平日16往復(土日祝は運行しません。)			
JR 大阪駅	JR 47分			
JR 京都駅	JR 17分			
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄 (京都駅経由)約60分			
JR 三ノ宮駅	JR 約70分			

## 6. 他大学院修士課程の設置状況

医薬品関連企業に創薬人材を供給する立場にある薬科学専攻修士課程の設置状況については別紙2のとおりで、56 私立大学薬学部・薬科大学のうち、21 大学に設置されているに過ぎず、しかもその総入学定員 367 名のうち 5 大学の 5 研究科を合わせて 75 名 (20.4%) が西日本にあるのみで、東日本地域における偏在が著しい状況です。

以上

## アンケート調査表

※このアンケートは文部科学省への設置申請に活かしていく予定です。設置申請手続きの都合上、大変恐縮ではございますが 2017年11月30日までにご回答くださいますようお願い申し上げます。

**Q1.** 薬学系の修士課程を修了した人材は御社にとって必要ですか？

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q2.** 御社において、薬学系の修士課程を修了していることは強みになりますか？

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q3.** (Q2 で①②を回答された方のみ) 薬学系の修士課程を修了していることは、どの分野において強みになりますか？

- ① 研究    ② 開発    ③ 医薬情報担当者    ④ 学術    ⑤ その他 (            )

**Q4.** 薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得した人材は御社にとって必要ですか？

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q5.** 御社において、薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得していることは強みになりますか？

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q6.** (Q5 で①②を回答された方のみ) 薬学系の修士課程を修了し博士の学位を取得していることは、どの分野において強みになりますか？

- ① 研究    ② 開発    ③ 医薬情報担当者    ④ 学術    ⑤ その他 (            )

**Q7.** 薬学系の修士課程を修了した人材が増えることは望ましいと思いますか？

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q8.** 立命館大学薬学部が構想している修士課程「薬科学専攻(仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？以下の質問に対して、当てはまる項目をお選びください。

Q8-1 輩出する人材(終了後)は、これからの社会において需要が高い。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない





## 1. 研究室概要

### <薬品分子創製化学分野>

#### 薬品分子化学研究室 担当教員／梶本 哲也 薬学博士

本研究室は、天然物化学および有機合成化学をバックグラウンドとして、天然物の合成、化学修飾、天然物類似体の合成を行いながら、医薬品リードとなり得る生理活性物質の探索を研究テーマとする。特に、ガングリオシド、ステロイド配糖体、イミノ糖ならびにその類縁体の生物活性に注目し、これら有機化合物の一般的かつ効率的な合成法を確立したいと考えている。現在、本目標の1つを達成すべく、無臭チオールを活性化基とするチオグリコシドを用いて、環境に優しいグリコシル化反応の検討を開始している。

#### 精密合成化学研究室 担当教員／土肥 寿文 博士(薬学)

有機合成化学を通じて、新しい創薬リード化合物を生み出したり、くすりの望みとする機能を大きく引き出したりすることができる。現在、欲しい医薬品を理論的に設計する時代が到来しつつあり、創薬の場においてますます有機合成の活躍する環境が整ってきた。当研究室ではこれまで、創薬研究に役立つ有機合成の知識と技術の伝承に携わりながら、持続可能で未来に残る精密有機合成を一つの指針として追及してきた。独自に開発した合成化学手法を用いて、優れた生物活性を持つ天然物や生物活性物質の類縁体を合成し、創薬開発候補とする研究開発を目指す。

#### 生命薬化学研究室 担当教員／古徳 直之 博士(薬学)

医薬シーズとしての有用性が高い生物活性天然物について、引き続き構造活性相関研究を進めるとともに、その情報をもとにして、活性発現のメカニズムを解明するための分子プローブを設計し、合成する。

### <生体分子解析学分野>

#### 生体分子構造学研究室 担当教員／北原 亮 博士(理学)

蛋白質が異常をきたすと、アルツハイマー病に代表される神経変性疾患や癌など様々な病気につながる。蛋白質の構造を原子レベルで理解することにより、機能発現や病気のメカニズムの分子論的な解釈が可能となる。数千気圧の高圧力実験から、溶液中の蛋白質がもつ多様なコンフォメーションの存在を明らかにする。構造変化は、コンフォメーション間の化学平衡の変化を意味し、分子の機能の高さや凝集性などその性質と直接関係する。このような蛋白質構造の研究から、医薬品開発における新しい方法論の開発を行う。

## 生体分析化学研究室 担当教員／豊田 英尚 薬学博士

糖鎖は、がんや糖尿病、ウイルス感染のほか、免疫機能とも関わり、あらゆる生命現象を解く鍵である。薬学研究では、生物薬品における糖鎖が薬効や安全性に影響をあたえるため、非常に重要な研究対象である。当研究室では糖鎖の機能解明を目的として、医薬品開発に役立つ研究を行うほか、ES 細胞や iPS 細胞における糖鎖の質的・量的な解析を行い、再生医療への貢献を目指している。具体的には、生体内糖鎖の中でも特に分析が難しい、グリコサミノグリカン(ヒアルロン酸、ヘパリン・ヘパラン硫酸、コンドロイチン硫酸、ケラタン硫酸)などの酸性多糖に関する超微量分析法の開発を行っている。また、iPS 細胞表面や ES 細胞表面に発現する特異的な糖鎖エピトープが細胞リプログラミングや分化において果たす生物学的役割を解析して、その活性糖鎖の化学構造を解明することにより、再生医療に役立つ細胞培養技術に必要な基盤知識の獲得を目指している。

## <薬物動態解析学分野>

### 分子薬物動態学研究室 担当教員／藤田 卓也 博士(薬学)

医薬品とは、特定の薬理効果を持つ有機化合物にその有効性と安全性を保障する十分な情報と、確実にヒトに投与されるための技術が付与された一つのシステムと考えられる。近年、ゲノム情報に基づいた論理的な医薬品開発が理論上は可能となってきた。こうしたゲノム創薬をはじめとした新薬開発研究は、非常に魅力的であり、注目が集まりがちであるが、その有効性と安全性が確保されなければ決して医薬品としての医療現場に供されることはない。そのため、新規医薬品の開発には、薬物の体内動態研究に基づいた化合物の最適化、有効性と安全性に関する proof of concept の検証、さらには適切な投与システムの開発が必須となる。医薬品の体内動態、薬物の吸収 (A:absorption)、分布 (D:distribution)、代謝 (M:metabolism)、排泄 (E:elimination)、毒性 (Tox:toxicity) により規定されるが、これらの生体内反応にかかる分子機構は極めて複雑で、未だ十分に解明されているとはいえない。本研究室では、こうした ADME-Tox 研究の中で、主として薬物吸収に焦点をあて、探索段階における新規開発化合物のヒトでの吸収性予測や製剤設計の合理化に関する研究、および創薬ターゲットとしてのトランスポーターの探索を進めている。

### 分子薬剤学研究室 担当教員／菅野 清彦 博士(薬学)

良好な生物学的利用率(バイオアベイラビリティ:BA)を有する薬物および製剤の開発は、有効性と安全性の高い医薬品の開発に必須である。経口製剤からの BA は、生体および薬物の様々な要因が複雑に関与しており、BA の全容解明は喫緊の課題となっている。そこで、本研究では、生体および薬物の物理化学的側面から BA の全容解明を目指した研究を行う。具体的な研究課題は、以下のような項目である。

過飽和現象、消化管流体力学、製剤-薬物間相互作用、生体成分-薬物間相互作用、食事成分-薬物間相互作用、構造膜透過性相関、構造溶解度相関、原薬形態最適化、製剤のパフ

パフォーマンス安定性、生物学的同等性、個体間および個体内差、消化管代謝、トランスポーター、その他関連項目。

### <生体機能薬学分野>

#### 神経発生システム研究室 担当教員／小池 千恵子 博士(薬学)

私たちは、毎日の生活における認識や行動の多くを視覚情報に依存している。網膜は哺乳類において、光情報を神経情報に変換する唯一の神経組織である。視覚情報は、大脳皮質視覚野で分解・統合といった情報処理が行われることは良く知られているが、光情報が入力する第一段階の組織である網膜においてまず基本となる重要な情報処理が行われている。私達は、網膜の情報処理の中心となる ON・OFF 回路に注目した、網膜回路による視覚応答制御の階層横断的解析を行っている。

#### 生体情報制御学研究室 担当教員／鈴木 健二 医学博士

生体情報制御学では、タンパク質のリン酸化とそれに関わる情報伝達分子の相互作用に焦点をあて、様々な疾患メカニズムや治療法の開発に繋がる研究を行う。具体的には、「肥満」と「糖尿病」をつなぐ脂肪細胞とマクロファージの相互作用の分子メカニズムを解明する研究や、複雑なシグナルネットワークに潜む制御システムを抽出してその制御原理を明らかにする研究、環境汚染物質が生体に及ぼす影響を解析する研究を行う。

#### 細胞工学研究室 担当教員／高田 達之 農学博士

我々ヒトの体は、約 200 種類からなる 60 兆個の細胞により構成され、これらが 1 つのシステム(個体)として統合され、機能している。これらの基となった細胞、ゲノム情報は 1 つであり、発生の過程でこのような多種類、多数の細胞が生み出される。この分化過程には様々なシグナル伝達に関与し、エピジェネティックな遺伝子発現変化を生じさせている。また、iPS 細胞の確立により、初期化現象の解析も可能となってきた。細胞工学研究室では、細胞分化、初期化メカニズム解析の観点から、マウスおよび霊長類の ES、iPS 細胞を用いた生殖細胞分化、環境化学物質が幹細胞分化に与える影響、発生に伴う DNA メチル化の変動に焦点をあて、研究を展開している。

### <薬物作用解析学分野>

#### 薬効解析科学研究室 担当教員 / 北村 佳久 薬学博士

薬効解析科学研究室では、「脳」を対象とし、薬理的な研究を行っている。脳には、全身機能を調節する神経細胞とそれをサポートするグリア細胞(アストロサイト、ミクログリアなど)、栄養を供給する脳血管が存在し、お互いが協調しながら、脳内活動を営んでいる。しかし、老化、遺伝的原因、事故などにより脳のホメオスタシスが破綻したとき、アルツハイマー病、パーキンソン病、脳卒中(脳出血・脳梗塞)などの脳の病気が発症する。超少子高齢化社会を迎えた現代、

老化とともに発症頻度の高まる、このような疾患の治療薬開発は急務の課題であり、多くの製薬企業もこの分野に参入しているが、残念ながら、根本的治療が期待できる特効薬はない。薬効解析科学研究室では、実験動物(ラット・マウス・プラナリアなど)やヒト由来培養細胞を用いて脳疾患発症メカニズムの解析から創薬ターゲットの探索や薬物シードと考えられる薬物の作用機序の解明および創薬研究を展開している。

#### **臨床薬理学研究室 担当教員 / 服部 尚樹 医学博士**

薬物の適正使用は臨床薬学において重要なテーマである。本研究室では内分泌疾患における薬物の適正使用に関連した研究を行っている。高プロラクチン血症の治療にはドパミン作動薬が用いられるが、消化器症状などの副作用が強い。本研究室ではプロラクチンに対する自己抗体が原因であり、高プロラクチン血症の新たな原因となる「マクロプロラクチン血症」を見出した。その基礎的、臨床的研究を通して、本疾患に対する薬物治療の必要性について検討している。インスリンを使用している糖尿病患者で、インスリンに対する自己抗体ができる場合があり、インスリン抵抗性の原因になっている。本研究室ではインスリン自己抗体産生に対する基礎的、臨床的検討を行っており、*in vitro* で適正なインスリンへの変更の提案ができないか検討している。これらの研究は京都医療センターや神戸医療センターなどと共同で実施している。

## 2. カリキュラム概要

専門科目	コア	薬品分子創製化学特論
		生体分子解析学特論
		薬物動態解析学特論
		生体機能薬学特論
		薬物作用解析学特論
		分析神経科学特論
		生命有機化学特論
		公衆衛生・国際保健特論
		研究開発・知的財産特論
		専門英語
	選択	創剤学特論
		病原微生物学・感染症学特論
		臨床治療学特論
		天然薬物学特論
		臨床副作用学特論
		分子病態学特論
		分子生物薬剤学特論
		生理・構造生物学特論
		幹細胞生物学特論
生活習慣病特論		
医薬品安全評価学特論		
医療情報分析学特論		
自由科目	選択	技術者実践英語
薬科学研究科目	演習	演習1
		演習2
		演習3
		演習4
	特別実験	特別実験1
		特別実験2
		特別実験3
		特別実験4

薬科大学（薬学部）学科別一覧（平成29年度）

【国立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
1	北海道大学	薬学科	30	薬科学科	80
2	東北大学	薬学科	20	創薬科学科	60
3	千葉大学	薬学科	40	薬科学科	40
4	東京大学	薬学科	8	薬科学科	72
5	富山大学	薬学科	55	創薬科学科	50
6	金沢大学	薬学類	35	創薬科学類	40
7	京都大学	薬学科	30	薬科学科	50
8	大阪大学	薬学科	25	薬科学科	55
9	岡山大学	薬学科	40	創薬科学科	40
10	広島大学	薬学科	38	薬科学科	22
41	徳島大学	薬学科	40	創薬科学科	40
12	九州大学	臨床薬学科	30	創薬科学科	50
13	長崎大学	薬学科	40	薬科学科	40
14	熊本大学	薬学科	55	創薬・生命薬科学科	35
国立計 (14大学14学部)		14学科	486	14学科	644

【公立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
15	岐阜薬科大学	薬学科	120	—	—
16	静岡薬科大学	薬学科	80	薬科学科	40
17	名古屋市立大学	薬学科	60	生命薬科学科	40
公立計 (3大学3学部)		3学科	260	2学科	80

【私立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
18	北海道医療大学	薬学科	(10) 160	—	—
19	北海道薬科大学	薬学科	210	—	—
20	青森大学	薬学科	90	—	—
21	埼玉医科大学	薬学科	140	—	—
22	東北薬科薬科大学	薬学科	300	生命薬科学科	40
23	いわき明星大学	薬学科	90	—	—
24	奥羽大学	薬学科	140	—	—
25	国際医療福祉大学	薬学科	180	—	—
26	高崎医療福祉大学	薬学科	90	—	—
27	城西大学	薬学科	250	薬科学科	50
				医療学質学科	100
28	日本薬科大学	薬学科	260	薬学びびん入薬科学科	90
29	城西国際大学	医療薬学科	130	—	—
30	千葉科学大学	薬学科	120	生命薬科学科	40
31	帝京平成大学	薬学科	[2] 240	—	—
32	東京理科大学	薬学科	100	生命創薬科学科	100

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
33	東邦大学	薬学科	220	—	—
34	日本大学	薬学科	244	—	—
35	北里大学	薬学科	260	生命創薬科学科	35
36	慶應義塾大学	薬学科	150	薬科学科	60
37	昭和大学	薬学科	200	—	—
38	昭和薬科大学	薬学科	240	—	—
39	東京薬科大学	医療薬学科	140	—	—
		医療薬物療学科	140	—	—
		医療衛生薬学科	140	—	—
40	薬科大学	薬学科	260	創薬科学科	20
41	武蔵野大学	薬学科	145	—	—
42	明治薬科大学	薬学科	300	生命創薬科学科	60
43	帝京大学	薬学科	320	—	—
44	横浜薬科大学	健康薬学科	60	薬科学科	30
		漢方薬学科	120	—	—
		臨床薬学科	180	—	—
45	新潟薬科大学	薬学科	180	—	—
46	北陸大学	薬学科	220	—	—
47	愛知学院大学	医療薬学科	145	—	—
48	金城学院大学	薬学科	150	—	—
49	名城大学	薬学科	265	—	—
50	鈴鹿医療科学大学	薬学科	100	—	—
51	京都薬科大学	薬学科	360	—	—
52	同志社女子大学	医療薬学科	120	—	—
53	立命館大学	薬学科	100	創薬科学科	60
54	大阪大谷大学	薬学科	140	—	—
55	大阪薬科大学	薬学科	(5) 270	薬科学科	30
56	近畿大学	医療薬学科	150	創薬科学科	40
57	関西大学	薬学科	220	—	—
58	神戸学院大学	薬学科	250	—	—
59	神戸薬科大学	薬学科	270	—	—
60	兵庫医療大学	医療薬学科	150	—	—
61	姫路獨協大学	医療薬学科	100	—	—
62	武庫川女子大学	薬学科	210	健康生命薬科学科	40
63	敬愛大学	薬学科	120	—	—
64	広島国際大学	薬学科	120	—	—
65	福山大学	薬学科	150	—	—
66	安田女子大学	薬学科	120	—	—
67	徳島大学(薬学部)	薬学科	180	—	—
	(香川薬学部)	薬学科	90	—	—
68	松山大学	医療薬学科	100	—	—
69	第一薬科大学	薬学科	113	—	—
		漢方薬学科	80	—	—
70	福岡大学	薬学科	230	—	—
71	長崎国際大学	薬学科	120	—	—
72	薬城大学	薬学科	120	—	—
73	九州保健福祉大学	薬学科	[3][3] 140	動物生命薬科学科	40
私立計 (56大学57学部)		62学科	10,662	16学科	835
			[10] [10] [3]		

国公私立合計 (73大学74学部)	79学科	11,408	32学科	1,554
		[10] [10] [3]		

注) [ ]は第2年次編入学定員、( )は第3年次編入学定員、  
[ ]は第4年次編入学定員 でそれぞれ外数である。



## 薬学系大学院専攻別一覧（平成29年度）

【国立】

No.	大学名	研究科等名	6年制学科に基礎を置く専攻			4年制学科に基礎を置く専攻				
			専攻名	入学定員	修業年限	専攻名	課程区分	入学定員	修業年限	
1	北海道大学	生命科学院	臨床薬学専攻	4	4	生命科学専攻	博士 ※ 46	3	修士 ※ 132	2
2	東北大学	薬学研究科	医療薬学専攻	4	4	分子薬科学専攻	博士 8	3	修士 22	2
						生命薬科学専攻	博士 10	3	修士 32	2
3	千葉大学	医学薬学府	先端医学薬学専攻	※ 108	4	先端創薬科学専攻	博士 15	3	修士 50	2
4	東京大学	薬学系研究科	薬学専攻	10	4	薬科学専攻	博士 50	3	修士 100	2
5	富山大学	医学薬学教育部	薬学専攻	4	4	薬科学専攻	博士 8	3	修士 35	2
6	金沢大学	医薬保健学総合研究科	薬学専攻	4	4	創薬科学専攻	博士 11	3	修士 38	2
7	名古屋大学	創薬科学研究科				(独立) 基礎創薬学専攻	博士 10	3	修士 32	2
8	名古屋工業大学	工学研究科				(独立) 共同ナノメディシン科学専攻	博士 3	3		
9	京都大学	薬学研究科	薬学専攻	15	4	薬科学専攻	博士 22	3	修士 50	2
						医薬創成情報科学専攻	博士 7	3	修士 14	2
10	大阪大学	薬学研究科	医療薬学専攻	10	4	創成薬学専攻	博士 20	3	修士 75	2
11	岡山大学	医薬薬学総合研究科	生体制御科学専攻	※ 25	4	薬科学専攻	博士 10	3		
			病態制御科学専攻	※ 62	4					
			機能再生・再建科学専攻	※ 28	4					
			社会環境生命科学専攻	※ 13	4				修士 40	2
12	広島大学	医薬薬学保健学研究科	医薬薬学専攻	※ 97	4	薬科学専攻	博士 3	3	修士 18	2
13	徳島大学	薬科学教育部	薬学専攻	4	4	創薬科学専攻	博士 10	3	修士 35	2
14	九州大学	薬学府	臨床薬学専攻	5	4	創薬科学専攻	博士 12	3	修士 55	2
15	長崎大学	医薬薬学総合研究科	新興感染症病態制御学専攻	※ 20	4	生命薬科学専攻	博士 10	3	修士 36	2
			医療科学専攻	※ 60	4					
			放射線医療科学専攻	※ 5	4					
16	熊本大学	薬学教育部	医療薬学専攻	8	4	創薬・生命薬科学専攻	博士 10	3	修士 35	2

【公立】

No.	大学名	研究科等名	6年制学科に基礎を置く専攻			4年制学科に基礎を置く専攻				
			専攻名	入学定員	修業年限	専攻名	課程区分	入学定員	修業年限	
17	岐阜薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4	薬科学専攻	博士 5	3	修士 35	2
18	静岡県立大学	薬食生命科学総合学府	薬学専攻	5	4	薬科学専攻	博士 11	3	修士 30	2
						薬食生命科学専攻	博士 ※ 5	3		
19	名古屋市立大学	薬学研究科	医療機能薬学専攻	10	4	創薬生命科学専攻	博士 8	3	修士 42	2
						共同ナノメディシン科学専攻	博士 4	3		

## 薬科大学（薬学部）学科別一覧（平成29年度）

## 【国立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
1	北海道大学	薬学科	30	薬科学科	50
2	東北大学	薬学科	20	創薬科学科	60
3	千葉大学	薬学科	40	薬科学科	40
4	東京大学	薬学科	8	薬科学科	72
5	富山大学	薬学科	55	創薬科学科	50
6	金沢大学	薬学類	35	創薬科学類	40
7	京都大学	薬学科	30	薬科学科	50
8	大阪大学	薬学科	25	薬科学科	55
9	岡山大学	薬学科	40	創薬科学科	40
10	広島大学	薬学科	38	薬科学科	22
11	徳島大学	薬学科	40	創製薬科学科	40
12	九州大学	臨床薬学科	30	創薬科学科	50
13	長崎大学	薬学科	40	薬科学科	40
14	熊本大学	薬学科	55	創薬・生命薬科学科	35
国立計 (14大学14学部)		14学科	486	14学科	644

## 【公立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
15	岐阜薬科大学	薬学科	120	—	—
16	静岡県立大学	薬学科	80	薬科学科	40
17	名古屋市立大学	薬学科	60	生命薬科学科	40
公立計 (3大学3学部)		3学科	260	2学科	80

## 【私立】

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
18	北海道医療大学	薬学科	(10) 160	—	—
19	北海道薬科大学	薬学科	210	—	—
20	青森大学	薬学科	90	—	—
21	岩手医科大学	薬学科	140	—	—
22	東北医科薬科大学	薬学科	300	生命薬科学科	40
23	いわき明星大学	薬学科	90	—	—
24	奥羽大学	薬学科	140	—	—
25	国際医療福祉大学	薬学科	180	—	—
26	高崎健康福祉大学	薬学科	90	—	—
27	城西大学	薬学科	250	薬科学科	50
				医療栄養学科	100
28	日本薬科大学	薬学科	260	医療ビジネス薬科学科	90
29	城西国際大学	医療薬学科	130	—	—
30	千葉科学大学	薬学科	120	生命薬科学科	40
31	帝京平成大学	薬学科	[2] 240	—	—
32	東京理科大学	薬学科	100	生命創薬科学科	100

No	大学名	6年制		4年制	
		学科名	定員	学科名	定員
33	東邦大学	薬学科	220	—	—
34	日本大学	薬学科	244	—	—
35	北里大学	薬学科	260	生命創薬科学科	35
36	慶應義塾大学	薬学科	150	薬科学科	60
37	昭和大学	薬学科	200	—	—
38	昭和薬科大学	薬学科	240	—	—
39	東京薬科大学	医療薬学科	140	—	—
		医療薬物薬学科	140	—	—
		医療衛生薬学科	140	—	—
40	星薬科大学	薬学科	260	創薬科学科	20
41	武蔵野大学	薬学科	145	—	—
42	明治薬科大学	薬学科	300	生命創薬科学科	60
43	帝京大学	薬学科	320	—	—
44	横浜薬科大学	健康薬学科	60	薬科学科	30
		漢方薬学科	120	—	—
		臨床薬学科	160	—	—
45	新潟薬科大学	薬学科	180	—	—
46	北陸大学	薬学科	220	—	—
47	愛知学院大学	医療薬学科	145	—	—
48	金城学院大学	薬学科	150	—	—
49	名城大学	薬学科	265	—	—
50	鈴鹿医療科学大学	薬学科	100	—	—
51	京都薬科大学	薬学科	360	—	—
52	同志社女子大学	医療薬学科	120	—	—
53	立命館大学	薬学科	100	創薬科学科	60
54	大阪大谷大学	薬学科	140	—	—
55	大阪薬科大学	薬学科	[5] 270	薬科学科	30
56	近畿大学	医療薬学科	150	創薬科学科	40
57	摂南大学	薬学科	220	—	—
58	神戸学院大学	薬学科	250	—	—
59	神戸薬科大学	薬学科	270	—	—
60	兵庫医療大学	医療薬学科	150	—	—
61	姫路獨協大学	医療薬学科	100	—	—
62	武庫川女子大学	薬学科	210	健康生命薬科学科	40
63	就実大学	薬学科	120	—	—
64	広島国際大学	薬学科	120	—	—
65	福山大学	薬学科	150	—	—
66	安田女子大学	薬学科	120	—	—
67	徳島文理大学(薬学部)	薬学科	180	—	—
		(香川薬学部)	薬学科	90	—
68	松山大学	医療薬学科	100	—	—
69	第一薬科大学	薬学科	113	—	—
		漢方薬学科	60	—	—
70	福岡大学	薬学科	230	—	—
71	長崎国際大学	薬学科	120	—	—
72	崇城大学	薬学科	120	—	—
73	九州保健福祉大学	薬学科	[3] [3] 140	動物生命薬科学科	40
私立計 (56大学57学部)		62学科	10,662	16学科	835
			[10] (10) [3]		

国公私立合計 (73大学74学部)	79学科	11,408	32学科	1,559
		[10] (10) [3]		

注) [ ]は第2年次編入学定員、( )は第3年次編入学定員、  
{ }は第4年次編入学定員 でそれぞれ外数である。



## 薬学系大学院専攻別一覧（平成29年度）

【国立】

No.	大学名	研究科等名	6年制学科に基礎を置く専攻			4年制学科に基礎を置く専攻			
			専攻名	入学定員	修業年限	専攻名	課程区分	入学定員	修業年限
1	北海道大学	生命科学院	臨床薬学専攻	4	4	生命科学専攻	博士	※ 46	3
						修士	※ 132	2	
2	東北大学	薬学研究科	医療薬学専攻	4	4	分子薬科学専攻	博士	8	3
						修士	22	2	
						生命薬科学専攻	博士	10	3
						修士	32	2	
3	千葉大学	医学薬学府	先端医学薬学専攻	※ 108	4	先端創薬科学専攻	博士	15	3
4	東京大学	薬学系研究科	薬学専攻	10	4	総合薬品科学専攻	修士	50	2
						薬科学専攻	博士	50	3
5	富山大学	医学薬学教育部	薬学専攻	4	4	薬科学専攻	博士	100	2
						修士	8	3	
6	金沢大学	医薬保健学総合研究科	薬学専攻	4	4	創薬科学専攻	博士	35	2
						修士	11	3	
7	名古屋大学	創薬科学研究科				(独立) 基盤創薬学専攻	博士	38	2
						修士	10	3	
8	名古屋工業大学	工学研究科				(独立) 共同ナノメディシン科学専攻	博士	32	2
						修士	3	3	
9	京都大学	薬学研究科	薬学専攻	15	4	薬科学専攻	博士	22	3
						修士	50	2	
10	大阪大学	薬学研究科	医療薬学専攻	10	4	医薬創成情報科学専攻	博士	7	3
						修士	14	2	
11	岡山大学	医歯薬学総合研究科	生体制御科学専攻	※ 25	4	創成薬学専攻	博士	20	3
						修士	75	2	
			病態制御科学専攻	※ 62	4	薬科学専攻	博士	10	3
							修士	40	2
			機能再生・再建科学専攻	※ 28	4		修士	3	3
							博士	18	2
			社会環境生命科学専攻	※ 13	4		修士	18	2
							博士	3	3
12	広島大学	医歯薬保健学研究科	医歯薬学専攻	※ 97	4	薬科学専攻	博士	3	3
13	徳島大学	薬科学教育部	薬学専攻	4	4	創薬科学専攻	博士	18	2
						修士	10	3	
14	九州大学	薬学府	臨床薬学専攻	5	4	創薬科学専攻	博士	35	2
						修士	12	3	
15	長崎大学	医歯薬学総合研究科	新興感染症病態制御学系専攻	※ 20	4	創薬科学専攻	博士	55	2
						修士	10	3	
			医療科学専攻	※ 60	4	生命薬科学専攻	博士	10	3
							修士	36	2
16	熊本大学	薬学教育部	医療薬学専攻	8	4	創薬・生命薬科学専攻	博士	8	3
						修士	42	2	
						共同ナノメディシン科学専攻	博士	4	3

【公立】

No.	大学名	研究科等名	6年制学科に基礎を置く専攻			4年制学科に基礎を置く専攻			
			専攻名	入学定員	修業年限	専攻名	課程区分	入学定員	修業年限
17	岐阜薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4	薬科学専攻	博士	5	3
						修士	35	2	
18	静岡県立大学	薬食生命科学総合学府	薬学専攻	5	4	薬科学専攻	博士	11	3
						修士	30	2	
						薬食生命科学専攻	博士	※ 5	3
						修士	8	3	
19	名古屋市立大学	薬学研究科	医療機能薬学専攻	10	4	創薬生命科学専攻	博士	42	2
						修士	8	3	
						共同ナノメディシン科学専攻	博士	4	3

【私立】

No.	大学名	研究科等名	6年制学科に基礎を置く専攻			4年制学科に基礎を置く専攻			
			専攻名	入学定員	修業年限	専攻名	課程区分	入学定員	修業年限
20	北海道医療大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	(独立)生命薬科学専攻	修士	3	2
21	北海道薬科大学	薬学研究科	臨床薬学専攻	3	4				
22	岩手医科大学	薬学研究科	医療薬学専攻	3	4	(独立)薬科学専攻	修士	3	2
23	東北医科薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	薬科学専攻	博士 修士	3 20	3 2
24	国際医療福祉大学	薬学研究科 薬科学研究科	医療・生命薬学専攻	5	4	(独立)生命薬科学専攻	修士	5	2
25	高崎健康福祉大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4				
26	城西大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	薬科学専攻	博士 修士	3 20	3 2
27	城西国際大学	薬学研究科	医療薬学専攻	3	4	医療栄養学専攻	修士	20	2
28	千葉科学大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	薬科学専攻	博士 修士	5 10	3 2
29	帝京平成大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4				
30	東京理科大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4	薬科学専攻	博士 修士	5 90	3 2
31	東邦大学	薬学研究科	医療薬学専攻	5	4	(独立)薬科学専攻	修士	10	2
32	日本大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4				
33	北里大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	薬科学専攻	博士 修士	6 15	3 2
34	慶應義塾大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4	薬科学専攻	博士 修士	3 40	3 2
35	昭和大学	薬学研究科	薬学専攻	8	4				
36	昭和薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	(独立)薬科学専攻	修士	5	2
37	東京薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	10	4	(独立)薬科学専攻	修士	5	2
38	星薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4	総合薬科学専攻	博士 修士	5 16	3 2
39	武蔵野大学	薬科学研究科				(独立)薬科学専攻	博士 修士	5 5	2 2
40	明治薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4	生命創薬科学専攻	博士 修士	5 20	3 2
41	帝京大学	薬学研究科	薬学専攻	8	4				
42	新潟薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4				
43	愛知学院大学	薬学研究科	医療薬学専攻	3	4				
44	名城大学	薬学研究科	薬学専攻	4	4				
45	鈴鹿医療科学大学	薬学研究科	医療薬学専攻	2	4				
46	京都薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	10	4	(独立)薬科学専攻	博士 修士	2 5	3 2
47	同志社女子大学	薬学研究科	医療薬学専攻	4	4				
48	立命館大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4				
49	大阪薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	薬科学専攻	博士 修士	5 20	3 2
50	近畿大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	薬科学専攻	博士 修士	2 15	3 2
51	摂南大学	薬学研究科	医療薬学専攻	4	4				
52	神戸学院大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4				
53	神戸薬科大学	薬学研究科	薬学専攻	3	4	(独立)薬科学専攻	修士	5	2
54	兵庫医療大学	薬学研究科	医療薬学専攻	3	4				
55	武庫川女子大学	薬学研究科	薬学専攻	2	4	薬科学専攻	博士 修士	2 30	3 2
56	就実大学	医療薬学研究科	疾病治療薬学専攻	4	4				
57	広島国際大学	薬学研究科	医療薬学専攻	2	4				
58	福山大学	薬学研究科	医療薬学専攻	3	4				
59	安田女子大学	薬学研究科	薬学専攻	2	4				
60	徳島文理大学	薬学研究科	薬学専攻	6	4				
61	松山大学	医療薬学研究科	医療薬学専攻	3	4				
62	福岡大学	薬学研究科	薬学専攻	6	4	(独立)健康薬科学専攻	修士	5	2
63	長崎国際大学	薬学研究科	医療薬学専攻	3	4				
64	崇城大学	薬学研究科	薬学専攻	5	4				
65	九州保健福祉大学	医療薬学研究科	医療薬学専攻	4	4				

- 入学定員の左に※とあるものは、医学等多分野に係る専攻であり、薬学系は内数
- 専攻名の左に(独立)とあるものは、基礎となる薬学系の4年制学科をもたない独立専攻

学生の確保の見通し等に関連するアンケート送付先企業一覧

No.	協会名	関西エリア	会社名	住所
1	滋賀県薬業協会	○	日野薬品工業株式会社	滋賀県蒲生郡日野町上野田119
2	滋賀県薬業協会	○	福地製薬株式会社	滋賀県蒲生郡日野町寺尻824
3	滋賀県薬業協会	○	ピアック株式会社	蒲生郡日野町寺尻1008
4	滋賀県薬業協会	○	株式会社岡平製薬所	滋賀県蒲生郡日野町村井1246
5	滋賀県薬業協会	○	小林薬工株式会社	滋賀県蒲生郡日野町大窪668
6	滋賀県薬業協会	○	藤本製薬株式会社 彦根工場	滋賀県愛知郡愛荘町長野2202-1
7	滋賀県薬業協会	○	コニシ株式会社滋賀工場エタノール製造部	滋賀県甲賀市水口町笹ヶ丘1-12
8	滋賀県薬業協会	○	日新製薬株式会社	滋賀県甲賀市水口町宮の前2-62
9	滋賀県薬業協会	○	サイアヤファーマ株式会社 長浜工場	滋賀県長浜市田村町1332-1
10	滋賀県薬業協会	○	株式会社近江兄弟社	滋賀県近江八幡市魚屋町元29
11	滋賀県薬業協会	○	山善製薬株式会社 滋賀工場	滋賀県近江八幡市江頭町樋の下247-1
12	滋賀県薬業協会	○	参天製薬株式会社 滋賀工場	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪348-3
13	滋賀県薬業協会	○	森下仁丹株式会社 滋賀工場	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪960-12
14	滋賀県薬業協会	○	ワダカルシウム製薬株式会社 滋賀工場	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪510-10
15	滋賀県薬業協会	○	マルホ株式会社 彦根工場	滋賀県彦根市高宮町2763
16	滋賀県薬業協会	○	有川製薬株式会社	滋賀県彦根市鳥居本町425
17	滋賀県薬業協会	○	アストラゼネカ株式会社 米原工場	滋賀県米原市三吉215-31
18	滋賀県薬業協会	○	昭和化学工業株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町大原市場157-9
19	滋賀県薬業協会	○	大正薬品工業株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町大原市場3
20	滋賀県薬業協会	○	大昭製薬株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町大原市場168
21	滋賀県薬業協会	○	近江製薬株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町田堵野935
22	滋賀県薬業協会	○	株式会社コーガイトープ	滋賀県甲賀市甲賀町神保53-6
23	滋賀県薬業協会	○	バイエル薬品株式会社 滋賀工場	滋賀県甲賀市甲賀町鳥居野121-1
24	滋賀県薬業協会	○	株式会社アークレイファクトリー	滋賀県甲賀市甲賀町柑子1480
25	滋賀県薬業協会	○	クオリテックファーマ株式会社 滋賀工場	滋賀県野洲市三上2195-1
26	滋賀県薬業協会	○	伊丹製薬株式会社	滋賀県高島市今津町下弘部280
27	滋賀県薬業協会	○	東洋紡株式会社 大津医薬工場	滋賀県大津市堅田2丁目1番1号
28	日本製薬工業協会		久光製薬株式会社	佐賀県鳥栖市田代大宮町408
29	日本製薬工業協会		キッセイ薬品工業株式会社	長野県松本市芳野19-48
30	日本製薬工業協会		大正製薬株式会社	東京都豊島区高田3-24-1
31	日本製薬工業協会		ザノフィ株式会社	東京都新宿区西新宿3-20-2(東京オペラシティタワー)
32	日本製薬工業協会		テルモ株式会社	東京都新宿区西新宿3-20-2(東京オペラシティタワー)
33	日本製薬工業協会		ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社	東京都新宿区西新宿6-5-1(新宿アイランドタワー)
34	日本製薬工業協会		持田製薬株式会社	東京都新宿区四谷1-7
35	日本製薬工業協会		富山化学工業株式会社	東京都新宿区西新宿3-2-5(富山化学ビル)
36	日本製薬工業協会		株式会社ミノファージェン製薬	東京都新宿区西新宿3-2-11新宿三井ビルディング2号館
37	日本製薬工業協会		ユニーシーピージャパン株式会社	東京都新宿区西新宿8-17-1(新宿グランドタワー)
38	日本製薬工業協会		メルクセロノ株式会社	東京都目黒区下目黒1-8-1(アルコタワー)
39	日本製薬工業協会		ファイザー株式会社	渋谷区代々木3-22-7(新宿文化クイントビル)
40	日本製薬工業協会		グラクソ・スミスクライン株式会社	東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15(GSKビル)
41	日本製薬工業協会		日本ベリンガーインゲルハイム株式会社	東京都品川区大崎2-1-1 Think Park Tower
42	日本製薬工業協会		株式会社ボーラファルマ	東京都品川区西五反田8-9-5
43	日本製薬工業協会		科研製薬株式会社	東京都文京区本駒込2-28-8
44	日本製薬工業協会		エーザイ株式会社	東京都文京区小石川4-6-10
45	日本製薬工業協会		あすか製薬株式会社	東京都港区芝浦2-5-1
46	日本製薬工業協会		クラシエ製薬株式会社	東京都港区海岸3-20-20
47	日本製薬工業協会		マイランEPD合同会社	東京都港区三田3-5-27
48	日本製薬工業協会		アヴィ合同会社	東京都港区三田3-5-27 住友不動産三田ソインビル西館
49	日本製薬工業協会		株式会社ツムラ	東京都港区赤坂2-17-11
50	日本製薬工業協会		株式会社ヤクルト本社	東京都港区東新橋1丁目1番19号
51	日本製薬工業協会		日本たばこ産業株式会社	東京都港区虎ノ門2-2-1(JTビル)
52	日本製薬工業協会		日本アルコン株式会社	東京都港区虎ノ門1-23-1(虎ノ門ヒルズ森タワー)
53	日本製薬工業協会		ノバルティスファーマ株式会社	東京都港区虎ノ門1-23-1
54	日本製薬工業協会		バクスタルタ株式会社	東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ20階
55	日本製薬工業協会		Meiji Seika ファルマ株式会社	東京都中央区京橋2-4-16
56	日本製薬工業協会		あゆみ製薬株式会社	東京都中央区銀座4-12-15(歌舞伎座タワー)
57	日本製薬工業協会		EAファーマ株式会社	東京都中央区入船2-1-1
58	日本製薬工業協会		トーアエイヨー株式会社	東京都中央区人丁堀3-10-6
59	日本製薬工業協会		鳥居薬品株式会社	東京都中央区日本橋本町3-4-1(トリ日本橋ビル)
60	日本製薬工業協会		興和株式会社	東京都中央区日本橋本町3-4-14
61	日本製薬工業協会		第一三共株式会社	東京都中央区日本橋本町3-5-1
62	日本製薬工業協会		アステラス製薬株式会社	東京都中央区日本橋本町2-5-1
63	日本製薬工業協会		ゼリア新薬工業株式会社	東京都中央区日本橋小舟町10-11
64	日本製薬工業協会		わかもと製薬株式会社	東京都中央区日本橋本町2-2-2
65	日本製薬工業協会		中外製薬株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1
66	日本製薬工業協会		MSD株式会社	東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
67	日本製薬工業協会		大塚製薬株式会社	東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
68	日本製薬工業協会		大鵬薬品工業株式会社	東京都千代田区神田錦町1-27
69	日本製薬工業協会		杏林製薬株式会社	東京都千代田区神田駿河台4-6(御茶ノ水ソラシティ)
70	日本製薬工業協会		旭化成ファーマ株式会社	東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング
71	日本製薬工業協会		ヤンセンファーマ株式会社	東京都千代田区西神田3-5-2
72	日本製薬工業協会		日本ケミファ株式会社	東京都千代田区岩本町2-2-3
73	日本製薬工業協会		帝人ファーマ株式会社	東京都千代田区霞が関3-2-1 霞ヶ関コモンゲート西館
74	日本製薬工業協会		協和発酵キリン株式会社	東京都千代田区大手町1-6-1(大手町ビル)
75	日本製薬工業協会		生化学工業株式会社	東京都千代田区丸の内1-6-1
76	日本製薬工業協会		日本化薬株式会社	東京都千代田区丸の内2-1-1(明治安田生命ビル)
77	日本製薬工業協会		ノボ ノルディスク ファーマ株式会社	東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
78	大阪医薬品協会		協同薬品工業株式会社	山形県長井市本町2-10-6
79	大阪医薬品協会		ファーマバック株式会社	富山県富山市小中163
80	大阪医薬品協会		株式会社陽進堂	富山県富山市婦中町萩島3697-8
81	大阪医薬品協会		株式会社バナケイア製薬	富山県高岡市中田4576
82	大阪医薬品協会		協和ファーマケミカル株式会社	富山県高岡市長慶寺530
83	大阪医薬品協会		株式会社廣貫堂	富山県富山市梅沢町2-9-1
84	大阪医薬品協会		前田薬品工業株式会社	富山県富山市向新庄町1-18-47
85	大阪医薬品協会		リードケミカル株式会社	富山県富山市日俣77-3
86	大阪医薬品協会		株式会社池田模範堂	富山県中新川郡上市町神田16
87	大阪医薬品協会		辰巳化学株式会社	石川県金沢市久安3-406
88	大阪医薬品協会		小林化工株式会社	福井県あわら市矢地5-15
89	大阪医薬品協会		レキオファーマ株式会社	沖縄県那覇市松山2-1-12

No.	協会名	関西エリア	会社名	住所
90	大阪医薬品協会		祐徳薬品工業株式会社	佐賀県鹿島市大字納富分2596-1
91	大阪医薬品協会		株式会社大石膏塞堂	佐賀県鳥栖市本町1-933
92	大阪医薬品協会		大成薬品工業株式会社	福岡県筑後市大字熊野998
93	大阪医薬品協会		松田医薬品株式会社	高知県高知市塚ノ原8
94	大阪医薬品協会		シー・エイチ・オー新薬株式会社	徳島県徳島市国府町府中439
95	大阪医薬品協会		長生堂製薬株式会社	徳島県徳島市国府町府中92
96	大阪医薬品協会		株式会社大塚製薬工場	徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
97	大阪医薬品協会		富田製薬株式会社	徳島県鳴門市瀬戸町明神字丸山85-1
98	大阪医薬品協会		株式会社Mレックス	香川県東かがわ市西山431-7
99	大阪医薬品協会		帝國製薬株式会社	香川県東かがわ市三本松567
100	大阪医薬品協会		株式会社伏見製薬所	香川県丸亀市中津町1676
101	大阪医薬品協会		日本歯科薬品株式会社	山口県下関市西入江町2-5
102	大阪医薬品協会		ホンノ一薬品株式会社	山口県岩国市岩国1-13-12
103	大阪医薬品協会		二反田薬品工業株式会社	広島県呉市吉浦新町2-5-2
104	大阪医薬品協会		株式会社ジェイ・エム・エス	広島県広島市中区加古町12-17
105	大阪医薬品協会		丸善製薬株式会社	広島県尾道市向東町14703-10
106	大阪医薬品協会		マナック株式会社	広島県福山市箕沖町92
107	大阪医薬品協会		備前化成株式会社	岡山県赤磐市徳富363
108	大阪医薬品協会		岡山大鵬薬品株式会社	岡山県備前市久々井字沖1775-1
109	大阪医薬品協会		株式会社林原	岡山市北区下石井1-1-3(日本生命岡山第2ビル新館)
110	大阪医薬品協会	○	エイチビィアイ株式会社	兵庫県宍粟市山崎町上比地650-1
111	大阪医薬品協会	○	ナガセ医薬品株式会社	兵庫県伊丹市千僧4-323
112	大阪医薬品協会	○	株式会社大阪合成有機化学研究所	兵庫県西宮市西宮浜1-1-2
113	大阪医薬品協会	○	シオエ製薬株式会社	兵庫県尼崎市潮江3-1-11
114	大阪医薬品協会	○	株式会社ナードケマルズ	兵庫県尼崎市西長洲町2-6-1
115	大阪医薬品協会	○	皇漢堂製薬株式会社	兵庫県尼崎市長洲本通2-8-27
116	大阪医薬品協会	○	JCRファーマ株式会社	兵庫県芦屋市春日町3-19
117	大阪医薬品協会	○	ムネ製薬株式会社	兵庫県淡路市尾崎859
118	大阪医薬品協会	○	ピオフェルミン製薬株式会社	兵庫県神戸市市長田区三番町5-5
119	大阪医薬品協会	○	摩耶堂製薬株式会社	兵庫県神戸市西区玉津町居住65-1
120	大阪医薬品協会	○	日本イーライリリー株式会社	兵庫県神戸市中央区磯上通7-1-5(三宮プラザビル)
121	大阪医薬品協会	○	太虎精堂製薬株式会社	兵庫県神戸市中央区吾妻通2-1-27
122	大阪医薬品協会	○	シスメックス株式会社	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
123	大阪医薬品協会	○	アスピオファーマ株式会社	神戸市中央区港島南町6-4-3
124	大阪医薬品協会	○	株式会社オフテクス	兵庫県神戸市中央区港島南町 5-2-4
125	大阪医薬品協会	○	公益財団法人先端医療振興財団	兵庫県神戸市中央区港島南町2-2
126	大阪医薬品協会	○	劑盛堂薬品株式会社	和歌山市太田二丁目8-31
127	大阪医薬品協会	○	東和製薬株式会社	和歌山県紀の川市貴志川町丸栖1229
128	大阪医薬品協会	○	至誠堂製薬株式会社	奈良県御所市茅原220-1
129	大阪医薬品協会	○	大同薬品工業株式会社	奈良県葛城市新村214-1
130	大阪医薬品協会	○	金陽製薬株式会社	奈良県五條市住川町1420
131	大阪医薬品協会	○	ホシエヌ製薬株式会社	奈良県五條市住川町1380
132	大阪医薬品協会	○	大峰堂薬品工業株式会社	奈良県大和高田市大字根成柿574
133	大阪医薬品協会	○	佐藤薬品工業株式会社	奈良県橿原市観音寺町9-2
134	大阪医薬品協会	○	高市製薬株式会社	奈良県高市郡明日香村野口10
135	大阪医薬品協会	○	大藤製薬株式会社	京都府福知山市笹尾町995
136	大阪医薬品協会	○	武田ヘルスケア株式会社	京都府福知山市長田野町2-21
137	大阪医薬品協会	○	日東薬品工業株式会社	京都府向日市上植野町南開35-3
138	大阪医薬品協会	○	ピタエックス薬品工業株式会社	京都市伏見区竹田向代町7
139	大阪医薬品協会	○	理研化学工業株式会社	京都市伏見区深草向川原町48
140	大阪医薬品協会	○	国立大学法人 京都大学iPS細胞研究所	京都市左京区聖護院川原町53
141	大阪医薬品協会	○	京都薬品工業株式会社	京都市中京区西ノ京月輪町38
142	大阪医薬品協会	○	日本新薬株式会社	京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14
143	大阪医薬品協会	○	大蔵製薬株式会社	京都市南区東九条柳下町66
144	大阪医薬品協会	○	株式会社三洋化学研究所	大阪府堺市美原区多治井148-1
145	大阪医薬品協会	○	ニチバン株式会社 大阪工場	大阪府藤井寺市北岡2-3-18
146	大阪医薬品協会	○	藤本製薬株式会社	大阪府松原市西大塚1-3-40
147	大阪医薬品協会	○	エフビー株式会社	大阪府松原市西大塚1-3-40
148	大阪医薬品協会	○	小西製薬株式会社	大阪府東大阪市上石切町2-1309
149	大阪医薬品協会	○	八代製薬株式会社	大阪府東大阪市吉田下島10-2
150	大阪医薬品協会	○	株式会社大阪製薬	大阪府東大阪市高井田本通3-2-4
151	大阪医薬品協会	○	井藤漢方製薬株式会社	大阪府東大阪市長田東2-4-1
152	大阪医薬品協会	○	株式会社片山製薬所	大阪府枚方市招提田近1-12-3
153	大阪医薬品協会	○	東和薬品株式会社	大阪府門真市新橋町2-11
154	大阪医薬品協会	○	ピタカイン製薬株式会社	大阪府守口市橋波西之町2-5-16
155	大阪医薬品協会	○	サンスター株式会社	大阪府高槻市朝日町3-1
156	大阪医薬品協会	○	日本たばこ産業株式会社医薬総合研究所	大阪府高槻市紫町1-1
157	大阪医薬品協会	○	甲南化工株式会社	大阪府高槻市中川町5-21
158	大阪医薬品協会	○	アンジェス MG株式会社	大阪府茨木市彩都あさぎ7-7-15(彩都バイオインキュベータ)
159	大阪医薬品協会	○	エムジーファーマ株式会社	大阪府茨木市彩都あさぎ7-7-25
160	大阪医薬品協会	○	大成化工株式会社	大阪府茨木市藤の里2-11-6
161	大阪医薬品協会	○	白石薬品株式会社	大阪府茨木市五日市1-10-33
162	大阪医薬品協会	○	シオナギ分析センター株式会社	大阪府摂津市三島2-5-1
163	大阪医薬品協会	○	一般財団法人阪大微生物病研究会	大阪府吹田市山田丘3-1
164	大阪医薬品協会	○	DSファーマバイオメディカル株式会社	大阪府吹田市江坂町2-1-43
165	大阪医薬品協会	○	株式会社カーヤ	大阪府吹田市垂水町3-4-11
166	大阪医薬品協会	○	昭和化工株式会社	大阪府吹田市芳野町18-23
167	大阪医薬品協会	○	日本純良薬品株式会社	大阪府吹田市西御旅町5-58
168	大阪医薬品協会	○	鶴原製薬株式会社	大阪府池田市豊島北1-16-1
169	大阪医薬品協会	○	株式会社ペプチド研究所	大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目2番9号
170	大阪医薬品協会	○	三栄源エフ・エフ・アイ株式会社	大阪府豊中市三和町1-1-11
171	大阪医薬品協会	○	三國製薬工業株式会社	大阪府豊中市神州町2-35
172	大阪医薬品協会	○	ナガノサイエンス株式会社	大阪府豊中市新千里東町1-4-2(千里ライフサイエンスセンタービル)
173	大阪医薬品協会	○	米田薬品株式会社	大阪市浪速区塩草3-2-2
174	大阪医薬品協会	○	大阪化成株式会社	大阪市西淀川区中島2-6-11
175	大阪医薬品協会	○	兼一薬品工業株式会社	大阪市西淀川区姫島3-5-23
176	大阪医薬品協会	○	生児栄養薬品株式会社	大阪市西淀川区姫里2-3-28
177	大阪医薬品協会	○	ドトロニックソファモアダネック株式会社	大阪府大阪市福島区福島7-20-1(KM西梅田ビル)
178	大阪医薬品協会	○	大幸薬品株式会社	大阪府大阪市西区西本町1-4-1
179	大阪医薬品協会	○	石原産業株式会社	大阪市西区江戸堀1-3-15
180	大阪医薬品協会	○	ダンヘルスケア株式会社	大阪市西区土佐堀1-4-11(金島土佐堀ビル)

No.	協会名	関西エリア	会社名	住所
181	大阪医薬品協会	○	サラヤ株式会社	大阪市東住吉区湯里2-2-8
182	大阪医薬品協会	○	全星薬品工業株式会社	大阪市阿倍野区旭町1-2-7(あべのメディックス)
183	大阪医薬品協会	○	高砂薬業株式会社	大阪市阿倍野区天王寺町南1-1-2
184	大阪医薬品協会	○	ロート製薬株式会社	大阪市生野区巽西1-8-1
185	大阪医薬品協会	○	稲畑産業株式会社	大阪市中央区南船場1-15-14
186	大阪医薬品協会	○	小野薬品工業株式会社	大阪市中央区久太郎町1-8-2
187	大阪医薬品協会	○	上野製薬株式会社	大阪市中央区高麗橋2-4-8
188	大阪医薬品協会	○	大日本住友製薬株式会社	大阪市中央区道修町2-6-8
189	大阪医薬品協会	○	興和株式会社大阪支店	大阪市中央区淡路町2-3-5
190	大阪医薬品協会	○	田辺製薬販売株式会社	大阪市中央区道修町3-2-10
191	大阪医薬品協会	○	田辺三菱製薬株式会社	大阪市中央区道修町3-2-10
192	大阪医薬品協会	○	吉富薬品株式会社	大阪市中央区道修町3-2-10
193	大阪医薬品協会	○	常盤薬品工業株式会社	大阪市中央区安土町3-5-12(御堂筋安土町ビル)
194	大阪医薬品協会	○	株式会社メディサイエンスプランニング 大阪支店	大阪市中央区平野町三丁目6番1号 あいおいニッセイ同和損保 御堂筋ビル
195	大阪医薬品協会	○	株式会社アルボス	大阪市中央区備後町2-4-9(日本精化ビル)
196	大阪医薬品協会	○	株式会社アスパークメディカル	大阪市中央区淡路町1-4-9(O.C.S淡路町ビル)
197	大阪医薬品協会	○	オール薬品工業株式会社	大阪市中央区平野町1-8-13(平野町八千代ビル)
198	大阪医薬品協会	○	千寿製薬株式会社	大阪市中央区平野町2-5-8(平野町センチュリービル)
199	大阪医薬品協会	○	日本臓器製薬株式会社	大阪市中央区平野町2-1-2(沢の鶴ビル)
200	大阪医薬品協会	○	株式会社メディコン	大阪市中央区平野町2-5-8(平野町センチュリービル)
201	大阪医薬品協会	○	乾卯栄養化学株式会社	大阪市中央区道修町1-3-7
202	大阪医薬品協会	○	カイゲンファーマ株式会社	大阪市中央区道修町2-5-14
203	大阪医薬品協会	○	小城製薬株式会社	大阪市中央区道修町2-5-8
204	大阪医薬品協会	○	コニシ株式会社	大阪市中央区道修町1-7-1(北浜TNKビル)
205	大阪医薬品協会	○	小林製薬株式会社	大阪市中央区道修町4-4-10(KDX小林道修町ビル)
206	大阪医薬品協会	○	塩野義製薬株式会社	大阪市中央区道修町3-1-8
207	大阪医薬品協会	○	塩野香料株式会社	大阪市中央区道修町3-1-6
208	大阪医薬品協会	○	塩野フィネス株式会社	大阪市中央区道修町3-1-6
209	大阪医薬品協会	○	田村薬品工業株式会社	大阪市中央区道修町2-1-10
210	大阪医薬品協会	○	東洋製薬化成株式会社	大阪市中央区道修町2-1-5(小野薬品工業株式会社本店ビル)
211	大阪医薬品協会	○	日新化成株式会社	大阪市中央区道修町1-7-10(扶桑道修町ビル)
212	大阪医薬品協会	○	ニプロファーマ株式会社	大阪市中央区道修町2-2-7
213	大阪医薬品協会	○	日本粉末薬品株式会社	大阪市中央区道修町2-5-11
214	大阪医薬品協会	○	藤本化学製品株式会社	大阪市中央区道修町4-5-13
215	大阪医薬品協会	○	米山薬品工業株式会社	大阪市中央区道修町2-3-11
216	大阪医薬品協会	○	健栄製薬株式会社	大阪市中央区伏見町2-5-8
217	大阪医薬品協会	○	株式会社目黒研究所	大阪市中央区伏見町2-6-4
218	大阪医薬品協会	○	ステラファーマ株式会社	大阪市中央区高麗橋3-2-7(ORIX高麗橋ビル)
219	大阪医薬品協会	○	株式会社住化分析センター	大阪市中央区高麗橋4-6-17(住化不動産横堀ビル)
220	大阪医薬品協会	○	扶桑化学工業株式会社	大阪府大阪市中央区高麗橋4-3-10
221	大阪医薬品協会	○	コマメド株式会社	大阪市中央区北浜2-1-21(つねなりビル)
222	大阪医薬品協会	○	シオノギヘルスケア株式会社	大阪市中央区北浜2-6-18(淀屋橋スクエア)
223	大阪医薬品協会	○	住友精化株式会社	大阪市中央区北浜4-5-33(住友ビル)
224	大阪医薬品協会	○	武田薬品工業株式会社	大阪市中央区道修町4-1-1
225	大阪医薬品協会	○	和光純薬工業株式会社	大阪市中央区道修町3-1-2
226	大阪医薬品協会	○	蝶理株式会社	大阪市中央区淡路町1-7-3
227	大阪医薬品協会	○	アルフレッサ ファーマ株式会社	大阪市中央区石町2-2-9
228	大阪医薬品協会	○	ホスピラ・ジャパン株式会社	大阪市中央区城見1-2-27(クリスタルタワー)
229	大阪医薬品協会	○	株式会社カナエ	大阪市中央区城見1-2-27(クリスタルタワー)
230	大阪医薬品協会	○	太平化学産業株式会社	大阪市中央区東高麗橋1-19
231	大阪医薬品協会	○	堀井薬品工業株式会社	大阪市中央区内淡路町1-2-6
232	大阪医薬品協会	○	キダ化学株式会社	大阪市中央区本町橋3-1
233	大阪医薬品協会	○	特定非営利活動法人 医薬品・食品品質保証支援センター	大阪市中央区内本町1-4-12 301号室
234	大阪医薬品協会	○	ハクソウメディカル株式会社	大阪市中央区徳井町2-4-9
235	大阪医薬品協会	○	大塚化学株式会社	大阪市中央区大手通3-2-27
236	大阪医薬品協会	○	川本産業株式会社	大阪市中央区谷町2-6-4
237	大阪医薬品協会	○	アグサジャパン株式会社	大阪市中央区玉造1-2-34
238	大阪医薬品協会	○	辻本化学工業株式会社	大阪市鶴見区鶴見1-6-88
239	大阪医薬品協会	○	ワダカルシウム製薬株式会社	大阪市鶴見区今津南2-7-6号
240	大阪医薬品協会	○	丸石製薬株式会社	大阪市鶴見区今津中2-4-2
241	大阪医薬品協会	○	扶桑薬品工業株式会社	大阪市城東区森之宮2-3-11
242	大阪医薬品協会	○	福井製薬株式会社	大阪市城東区今福東3-1-26
243	大阪医薬品協会	○	大和化成工業株式会社	大阪市旭区中宮3-1-27
244	大阪医薬品協会	○	株式会社ビーブランド・メディコーデンタル	大阪市東淀川区西淡路5-20-19
245	大阪医薬品協会	○	浜理薬品工業株式会社	大阪市東淀川区築島1-4-29
246	大阪医薬品協会	○	三友薬品株式会社	大阪市東淀川区南江口3-1-51
247	大阪医薬品協会	○	オー・ジー株式会社	大阪市淀川区宮原4-1-43
248	大阪医薬品協会	○	田辺三菱製薬工場株式会社	大阪市淀川区加島3-16-89
249	大阪医薬品協会	○	白水貿易株式会社	大阪市淀川区新高1-1-15
250	大阪医薬品協会	○	共和薬品工業株式会社	大阪市淀川区西中島5-13-9(新大阪MTビル1号館)
251	大阪医薬品協会	○	沢井製薬株式会社	大阪市淀川区宮原5-2-30
252	大阪医薬品協会	○	メディサ新薬株式会社	大阪市淀川区宮原5-2-27(新大阪沢井ビル)
253	大阪医薬品協会	○	株式会社リニカル	大阪市淀川区宮原1-6-1(新大阪ブリックビル)
254	大阪医薬品協会	○	湧永製薬株式会社	大阪市淀川区宮原4-5-36(セントラル新大阪ビル)
255	大阪医薬品協会	○	ニプロ株式会社	大阪市北区本庄西3-9-3
256	大阪医薬品協会	○	サイアヤファーマ株式会社	大阪市北区豊崎3-19-3
257	大阪医薬品協会	○	小太郎漢方製薬株式会社	大阪市北区中津2-5-23
258	大阪医薬品協会	○	マルホ株式会社	大阪市北区中津1-5-22
259	大阪医薬品協会	○	株式会社クラレ	大阪市北区角田町8-1(梅田阪急ビルオフィスタワー)
260	大阪医薬品協会	○	参天製薬株式会社	大阪市北区大深町4-20(グランフロント大阪タワーA)
261	大阪医薬品協会	○	東洋紡株式会社	大阪市北区堂島浜2-2-8
262	大阪医薬品協会	○	株式会社枳本天海堂	大阪市北区末広町3-21(新星和扇町ビル)
263	大阪医薬品協会	○	アイメディックス株式会社	大阪市北区西天満3-5-2(クエ西天満)
264	大阪医薬品協会	○	株式会社ニューチュアル	大阪市北区西天満1-2-5(大阪JAビル)
265	大阪医薬品協会	○	株式会社ファイブリングス	大阪市北区東天満2-9-4(千代田ビル東館)
266	大阪医薬品協会	○	東興薬品工業株式会社	大阪市北区浪花町14-25
267	大阪医薬品協会	○	アストラゼネカ株式会社	大阪市北区大深町3-1(グランフロント大阪タワーB)
268	大阪医薬品協会	○	ミックホールディングス株式会社大阪支社	大阪市北区中之島2-2-7(中之島セントラルタワー)
269	大阪医薬品協会	○	三協化成株式会社	大阪市北区堂島浜1-4-16
270	大阪医薬品協会	○	DSP五協フード&ケミカル株式会社	大阪市北区梅田2-5-25(ハービスOSAKA)
271	大阪医薬品協会	○	株式会社インテリム	大阪府大阪市北区梅田3-4-5(毎日インテシオ18階)

No.	協会名	関西エリア	会社名	住所
272	大阪医薬品協会	○	バイエル薬品株式会社	大阪市北区梅田2-4-9(ブリーゼタワー)
273	大阪医薬品協会	○	東洋化学株式会社	滋賀県蒲生郡日野町寺尻1008
274	大阪医薬品協会	○	ジェイドルフ製薬株式会社	滋賀県甲賀市土山町北土山2739
275	大阪医薬品協会	○	キョーリン製薬グループ工場株式会社	滋賀県甲賀市水口町笹が丘1-4
276	大阪医薬品協会	○	タカラバイオ株式会社	滋賀県草津市野路東7-4-38
277	大阪医薬品協会	○	武田アパ薬品株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町大原市場3
278	大阪医薬品協会	○	滋賀県製薬株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町滝879
279	大阪医薬品協会	○	日新薬品工業株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町田堵野80-1
280	大阪医薬品協会	○	大原薬品工業株式会社	滋賀県甲賀市甲賀町島居野121-5
281	大阪医薬品協会	○	平和メディック株式会社	岐阜県高山市上岡本町8-135
282	大阪医薬品協会	○	アビ株式会社池田医薬品工場	岐阜県揖斐郡池田町段234-1
283	大阪医薬品協会	○	日興製薬株式会社	岐阜県羽島市上中町一色467-1
284	大阪医薬品協会	○	日本製薬工業株式会社	愛知県小牧市小本東1-186
285	大阪医薬品協会	○	松浦薬業株式会社	愛知県名古屋市中区昭和区円上町24-21
286	大阪医薬品協会	○	栄新薬株式会社	名古屋市中区千種区竹越一丁目8番9号
287	大阪医薬品協会	○	ホーユー株式会社	愛知県名古屋市中区徳川1-501
288	大阪医薬品協会	○	株式会社三和化学研究所	愛知県名古屋市中区東外堀町35
289	大阪医薬品協会	○	天野エンザイム株式会社	愛知県名古屋市中区錦1-2-7
290	大阪医薬品協会	○	中北薬品株式会社	愛知県名古屋市中区丸の内3-5-15(油伊ビル)
291	大阪医薬品協会	○	株式会社医学生物学研究所	名古屋市中区栄四丁目5-3(KDX名古屋栄ビル10階)
292	大阪医薬品協会	○	株式会社メニコン	愛知県名古屋市中区栄3-21-19
293	大阪医薬品協会	○	ハンルイ医薬株式会社	愛知県名古屋市中区錦3-5-31(ジブラタ生命名古屋ビル)
294	大阪医薬品協会	○	株式会社日本点眼薬研究所	愛知県名古屋市中区西桜町76
295	大阪医薬品協会	○	テバ製薬株式会社	愛知県名古屋市中区中村区太閤1-24-11
296	大阪医薬品協会	○	株式会社メニコンネット	愛知県名古屋市中区市場木町390
297	大阪医薬品協会	○	ラクオリア創薬株式会社	名古屋市中村区名駅南1-21-19(Daiwa名駅ビル)
298	大阪医薬品協会	○	ハブト・ファーマ取手株式会社	茨城県取手市小文間5662
299	大阪医薬品協会	○	オンコセラビー・サイエンス株式会社	神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1(かながわサイエンスパークR&D棟)
300	大阪医薬品協会	○	株式会社アスクレップ	東京都豊島区東池袋3-1-3(ワールドインポートマートビル)
301	大阪医薬品協会	○	シャイアー・ジャパン株式会社	東京都新宿区北新宿2-21-1(新宿フロントタワー)
302	大阪医薬品協会	○	株式会社IDEC	東京都新宿区西新宿6-5-1(新宿アイランドタワー)
303	大阪医薬品協会	○	株式会社エスアールエル・メディサーチ	東京都新宿区西新宿6-5-1(新宿アイランドタワー)
304	大阪医薬品協会	○	ACメディカル株式会社	東京都新宿区西新宿2-6-1(新宿住友ビル)
305	大阪医薬品協会	○	イービーエス株式会社	東京都新宿区下宮比町2-23(つるやビル)
306	大阪医薬品協会	○	株式会社EPSアノシエイト	東京都新宿区下宮比町2番23号(つるやビル8階)
307	大阪医薬品協会	○	株式会社アールピーエム	東京都新宿区西新宿3-2-4(新和ビルディング)
308	大阪医薬品協会	○	株式会社サン・フレア	東京都新宿区四谷4-7(新宿ヒロセビル)
309	大阪医薬品協会	○	ミツバ貿易株式会社	東京都新宿区四谷1-4(綿半野原ビル)
310	大阪医薬品協会	○	バイオマリンファーマシューティカルジャパン株式会社	東京都渋谷区代々木2-11-17(ラウンドクロス新宿)
311	大阪医薬品協会	○	日機装株式会社	東京都渋谷区恵比寿4-20-3(恵比寿ガーデンプレイスタワー)
312	大阪医薬品協会	○	アサヒフードアンドヘルスケア株式会社	東京都渋谷区恵比寿南2-4-1
313	大阪医薬品協会	○	アレクシオンファーマ合同会社	東京都渋谷区恵比寿1-18-14(恵比寿ファーストスクエア)
314	大阪医薬品協会	○	株式会社トリニティ	東京都千代田区麹町2丁目2番31号 麹町サンライズビル301
315	大阪医薬品協会	○	株式会社メディクロス	東京都大田区山王2-5-13(大森北口ビル)
316	大阪医薬品協会	○	日本メジフィジックス株式会社	東京都江東区新砂3-4-10
317	大阪医薬品協会	○	バイオCMC株式会社	東京都江東区有明3-7-26(有明フロンティアビル)
318	大阪医薬品協会	○	ラクル薬品販売株式会社	東京都足立区鹿浜1-9-14
319	大阪医薬品協会	○	ロケットジャパン株式会社	東京都文京区西片1-15-15(KDX春日ビル)
320	大阪医薬品協会	○	株式会社ベル・メディカルソリューションズ	東京都文京区本駒込2-28-8(文京グリーンコートセンターオフィス)
321	大阪医薬品協会	○	株式会社高研	東京都文京区後楽1-4-14(後楽森ビル)
322	大阪医薬品協会	○	エイツヘルスケア株式会社	東京都文京区小石川1-4-1(住友不動産後楽園ビル)
323	大阪医薬品協会	○	アルビジランス株式会社	東京都台東区浅草1-39-11
324	大阪医薬品協会	○	ユニ・チャーム株式会社	東京都港区三田3-5-27(住友不動産三田ツインビル西館)
325	大阪医薬品協会	○	日本エア・リキード株式会社	東京都港区芝浦3-4-1(グランパークタワー)
326	大阪医薬品協会	○	川澄化学工業株式会社	東京都港区港南2-15-2(品川インターシティB棟)
327	大阪医薬品協会	○	ムンディファーマ株式会社	東京都港区港南2-15-1(品川インターシティA棟)
328	大阪医薬品協会	○	INC Research Japan株式会社	東京都港区港南2-16-1(品川イーストワンタワー)
329	大阪医薬品協会	○	クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社	東京都港区高輪4-10-18(京急第1ビル)
330	大阪医薬品協会	○	株式会社日本アルトマーク	東京都港区芝5-33-1(森永プラザビル本館)
331	大阪医薬品協会	○	AEGERION PHARMACEUTICALS株式会社	東京都港区赤坂1-12-32(アーク森ビル)
332	大阪医薬品協会	○	伊藤忠ケミカルフロンティア株式会社	東京都港区北青山2-5-1
333	大阪医薬品協会	○	SBIファーマ株式会社	東京都港区六本木1-6-1(泉ガーデンタワー)
334	大阪医薬品協会	○	富士フィルムファーマ株式会社	東京都港区西麻布2-26-30
335	大阪医薬品協会	○	日本赤十字社	港区芝大門1-1-3
336	大阪医薬品協会	○	一般社団法人 日本血液製剤機構	東京都港区浜松町2-4-1(世界貿易センタービル)
337	大阪医薬品協会	○	クオリテックファーマ株式会社	東京都港区海岸1-2-20(汐留ビルディング)
338	大阪医薬品協会	○	サンファーマ株式会社	東京都港区芝公園1-7-6 CROSS PLACE浜松町
339	大阪医薬品協会	○	スミス・アンド・ニューファンドマネジメント株式会社	東京都港区芝公園2-4-1(芝パークビルA館)
340	大阪医薬品協会	○	エイエムオー・ジャパン株式会社	東京都港区虎ノ門5-13-1(虎ノ門40MTビル)
341	大阪医薬品協会	○	テバエービーアイ株式会社	東京都港区虎ノ門5-1-5(外ロシティー神谷町)
342	大阪医薬品協会	○	テバファーマスーティカル株式会社	東京都港区虎ノ門5-1-5(外ロシティー神谷町)
343	大阪医薬品協会	○	フレイング・ファーマ株式会社	東京都港区虎ノ門2-3-17(虎ノ門2目タワー)
344	大阪医薬品協会	○	マイラン製薬株式会社	東京都港区虎ノ門5-11-2(オレンジヘルス森タワー)
345	大阪医薬品協会	○	ルンドベック・ジャパン株式会社	東京都港区虎ノ門5-1-4(東都ビル)
346	大阪医薬品協会	○	住友化学株式会社	東京都中央区新川2-27-1(東京住友インビル東館)
347	大阪医薬品協会	○	アリスタヘルスアンドニュートリションサイエンス株式会社	東京都中央区明石町 8-1(聖路加タワー)
348	大阪医薬品協会	○	住商ファーマインターナショナル株式会社	東京都中央区晴海1-8-12(晴海アイランドトリニクスエアオフィスタワーZ棟)
349	大阪医薬品協会	○	株式会社新日本科学PPD	東京都中央区明石町8-1(聖路加タワー)
350	大阪医薬品協会	○	ブレクセル・インターナショナル株式会社	東京都中央区新川1-17-21
351	大阪医薬品協会	○	株式会社エスアールディ	東京都中央区八丁堀3-4-8(RBM京橋ビル)
352	大阪医薬品協会	○	白井松新薬株式会社	東京都中央区京橋2-7-14(ビュレックス京橋)
353	大阪医薬品協会	○	東レ株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1(日本橋三井タワー)
354	大阪医薬品協会	○	第一三共プロファーマ株式会社	東京都中央区日本橋本町3-5-1
355	大阪医薬品協会	○	北興化学工業株式会社	東京都中央区日本橋本町1-5-4(住友不動産日本橋ビル)
356	大阪医薬品協会	○	ナイフィックス合同会社	東京都中央区日本橋兜町21-7(兜町ユニクスエア)
357	大阪医薬品協会	○	日本メダック株式会社	東京都中央区日本橋小舟町12-12(日本橋中屋ビル)
358	大阪医薬品協会	○	小川香料株式会社	東京都中央区日本橋本町4-1-11
359	大阪医薬品協会	○	小林薬品工業株式会社	東京都中央区日本橋箱崎町40-6
360	大阪医薬品協会	○	株式会社コーブリッジ	東京都千代田区平河町2-7-2(平河町ビルディング)
361	大阪医薬品協会	○	宏輝株式会社	東京都千代田区三番町2(三番町KSビル)
362	大阪医薬品協会	○	富士製薬工業株式会社	東京都千代田区三番町5-7

No.	協会名	関西エリア	会社名	住所
363	大阪医薬品協会		フマキラー株式会社	東京都千代田区神田美倉町11
364	大阪医薬品協会		三谷産業株式会社	東京都千代田区神田神保町2-36-1(住友不動産千代田ファーストウイング)
365	大阪医薬品協会		株式会社アイコン・ジャパン	東京都千代田区神田美土代町9-1(MD神田ビル)
366	大阪医薬品協会		株式会社アクセライズ	東京都千代田区神田小川町1-11(千代田小川町クロス)
367	大阪医薬品協会		アース製薬株式会社	東京都千代田区神田司町2-12-1
368	大阪医薬品協会		アース環境サービス株式会社	東京都千代田区神田紺屋町17
369	大阪医薬品協会		レオファーマ株式会社	東京都千代田区岩本町3-11-6
370	大阪医薬品協会		日本製薬株式会社	東京都千代田区東神田1-9-8
371	大阪医薬品協会		双日株式会社	東京都千代田区内幸町2-1-1
372	大阪医薬品協会		協和発酵バイオ株式会社	東京都千代田区大手町1-6-1
373	大阪医薬品協会		セルジーン株式会社	東京都千代田区丸の内2-7-2(JPタワー)
374	大阪医薬品協会		株式会社アールテック・ウエノ	東京都千代田区内幸町1-1-7(NBF目比谷)
375	大阪医薬品協会		信越化学工業株式会社	東京都千代田区大手町2-6-1(朝日生命大手町ビル)